平成３０年度

事　業　報　告　書

◆◇　目　次　◇◆

社会福祉法人　中山梅寿会 1
指定介護老人福祉施設　なかやま幸梅園..... 8
指定短期入所生活介護事業所　なかやま幸梅園..... 18
指定短期入所生活介護（介護予防）事業所　なかやま幸梅園..... 21
総合福祉施設　なかやま幸梅園　厨房..... 27
ケアハウス　なかやま幸梅園 30
指定通所介護事業所　なかやま幸梅園..... 39
指定通所介護（介護予防）事業所　なかやま幸梅園..... 43
指定居宅介護支援事業所　なかやま幸梅園..... 50
在宅介護支援センター　なかやま幸梅園..... 55
指定通所介護事業所　佐礼谷 66
指定通所介護（介護予防）事業所　佐礼谷..... 71
指定通所介護事業所　野中 79
指定通所介護（介護予防）事業所　野中..... 83
短期入所生活介護事業所　野中 90
地域活動支援センター　くりのみ 96
指定相談支援事業所　　くりのみ 101

社会福祉法人　中山梅寿会

社会福祉法人　中山梅寿会

【基本方針】

医療・介護の改正に伴い、迅速かつ適切な事業運営に取り組み、地域から求められたニーズを真摯に受け止め可能な限り対処するために事業全般切れ目のない連携を行う。

利用者本位の安心・安全に心掛け満足度の高いサービスを提供し、地域から信頼され笑顔あふれる法人を目指す。

【具体的取り組み】

（１） 佐礼谷事業所の移転をスムーズに実施し、新たな場所において適切なサービス展開を行う。

（２） 野中事業所の短期入所の増床に向けた取り組みを行い、経営の安定を図る。

（３） 役員の運営委員会等への継続参加により、理事会と事業現場との連携強化を図る。

（４） 地域から「なにを必要」とされているのか情報収集を行い、行政との連携を図り地域福祉の推進及び公益的取組を行う。

（５） 利用者に対し人権尊重を基本に、サービスの質の向上を図る。

（６） 人材確保のために、各レベルに合わせた教育システムの検討を行い、働きながら介護技術及び知識を習得し、やり甲斐のある職場づくりに取り組む。

（７） 法人全体がコンプライアンスの徹底を図り、健全な社会福祉法人を継続していく。

【総合評価】

達成度（%）　　８０％

＜評価＞

☑ 31 年 4 月から佐礼谷保育所後地に移転しサービスを開始することができた。

☑ 運営会議に理事長、施設長の参加を得ることができ、そして会議にて様々な意見交換を行うことで、現場との連携密度が高まった。

☑ 地域住民との交流の際に、情報収集を行った。その情報を基に地域に出向きサロン等に参加し福祉情報を提供し地域の健康づくりに対し啓発活動を行った。

☑ 教育システムの構築は完全ではなく、今後も適切かつ合理的な計画を立てる必要がある。施設内、外における研修を受けその後伝達研修を実施することで、職場内における情報共有はできており、知識技術の向上に繋がった。

☑ 法令順守及び人権を尊重した介護現場である為の教育は実施できているものの、個人の能力に差があるため個別に指導していく必要性を感じている。

1. 各委員会活動

委員会名	主 な 活 動 内 容	年回数
【 ナ ー ス 会 】 ・感染症・褥瘡対策	■感染症の予防と発生時の対応に関する取り組み ■褥瘡の予防と発生時の対応に関する取り組み	12
【 相 談 員 会 】 ・事故防止・身体拘束 ・車両委員 ・相談員	■身体拘束廃止に関する取り組み ■事故の予防と発生時の対応に関する取り組み ■車両の安全運行及び車両管理 ■行事計画・リスク管理・各事業所との連携	12
【 生 活 支 援 委 員 会 】 ・ターミナル委員・入浴委員 ・ケアプラン委員	■特養入居者のケアプラン業務運営 ■特養入居者の看取りに関する取り組み等 ■入浴環境の改善・入浴用品の見直し	12
【 リ ハ ビ リ 委 員 会 】	■生活援助に向けた環境整備とリハビリ	4
【 排 泄 委 員 会 】	■特養入居者の排泄の見直し・排泄用品の見直し	1
【 食 事 委 員 会 】	■入居・利用者の食事形態の見直し及び環境整備	6
【 広 報 委 員 会 】	■年4回の広報誌の作成運営	5
【 研 修 委 員 会 】	■特養における施設内外の研修の立案・実施	4
【 接 遇 委 員 会 】	■職員の質の向上に向けた取り組み	6
【 実 習 担 当 委 員 会 】	■施設内での実習受け入れに関する準備、調整等	1

【 職 員 会 】	法人・施設方針の確認、研修や各委員会報告等	12
【 運 営 会 議 】	施設運営に関する問題解決の取り組み	20
【 安 全 衛 生 委 員 会 】	安全衛生に関わる内容	12
【 防 災 委 員 会 】	防災対策等に関わる内容	12
【 特 養 会 】	特養における諸問題の解決に向けた取り組み	12
【 パ ー ト 会 】	職員間の連携と調整	1
【 医 療 安 全 】	各事業所の連携・勉強会の立案実施及び医療安全	12
【 厨 房 部 会 】	調理における諸問題の改善に向けた取り組み	4

2. ボランティア状況（定期）

	クラブ等名	ボランティア	年間回数
月/1回	フラワーアレンジメント	中塚道子	12回
月/3回	音 楽 ク ラ ブ	一色康子	36回
月/2回	書 道 ク ラ ブ	西山一幸・西山和子	24回
月/3回	シーツ交換ボランティア	町内協力者 43名	46回
月/1回	美 容 ボ ラ ン テ ィ ア	中山町内理容・美容店 7店舗	12回

3. ボランティア状況（不定期）

日	ボランティアグループ名	内　　容
4/3	金岡紀美子	外出支援
4/10	西岡昭次	事業所清掃
5/13	住民自治佐礼谷	事業所草刈
5/13	伊予市民生委員	母の日会演芸
5/15	金岡紀美子	外出支援
5/19	立川御神楽保存会	お神楽
6/10	中山地区民生児童委員	フレンドリー祭り(運営)
6/17	おっとっと一座	父の日会演芸
7/13	松前古城一座	演芸会
7/21	北風明美・西塚明美	中山夏祭りバザー販売補助
7/22	特養家族会	施設清掃、草刈他
7/31	金岡紀美子	外出支援
8/1	中山中学校	盆踊り(踊り練習・看板作り)
8/3	中山中学校	盆踊り(会場準備)
8/4	中山中学校(生徒会)	盆踊り(準備・運営協力)
	SVC	盆踊り(演芸披露)
	峠のOBAJIN太鼓	盆踊り(太鼓演奏)
	定期ボランティア多数	盆踊り(着付け・化粧・利用者付き添い)
	交通安全協会中山支部	盆踊り(交通整理)
	民生児童委員	盆踊り(準備・運営)
	玉井酒店	盆踊り(運営)
	中山婦人会	盆踊り(踊り)
	中山町商工会女性部	盆踊り(踊り)
	東町振興会	盆踊り(運営)
	ポケット	盆踊り(運営)
	中山保育園	盆踊り(運営)
	くりのみ保護者会	盆踊り(運営)
	特養家族会	盆踊り(運営)
	レインボー	盆踊り(運営)
	平磯自動車	盆踊り(資材・運搬)
	中山中学校	盆踊り(運営)
8/5	中山中学校	盆踊り(片付け)
8/16	中山仏教会	合同慰霊祭
	JAえひめ中央葬祭センター	合同慰霊祭
8/27	中山地区老人クラブ	中山地区老人クラブ会員による演芸他交流会
9/1	住民自治佐礼谷	新事業所桜伐採
9/15	中山地区建築組合	竹伐採、樋掃除他
9/16	中山カラオケ「縁歌塾」	敬老会演芸「カラオケ」出演
10/10	長野美恵子	外出支援
10/20	北風明美	交流会
10/21	泉町	利用者との交流(神輿)
11/3	高本博美 ・一色康子・宮田作美・高瀬美津子	文化祭 (野点・ふれあい広場)
11/4	宮田昭典・西村道子・井川一郎・中塚道子	文化祭(フリーマーケット・フラワーアレンジメント)
11/14	ハーモニカアンサンブル「しゃぼん玉」	演芸会
12/1	菜の花会	事業所清掃・草引き
12/18・19	金岡紀美子・米田昭子	演芸会
12/21	中山地区民生児童委員	施設清掃ボランティア
12/23	特養家族会	施設清掃活動
12/23	エンゼル	演芸会
1/2	藤縄　三島神社	歳旦祭

4. 園内研修

月日	研 修 内 容	講師名
4/25	法令順守・身体拘束に関する勉強会	窪田施設長
6/29	感染症（食中毒予防他）勉強会	小川管理栄養士
7/25	事故防止勉強会	事故防止委員会
9/26	感染症（インフルエンザ等）勉強会	感染症対策委員会
10/16	救急救命講習会（第1回）	消防署・救命士
10/31	救急救命講習会（第2回）	消防署・救命士
11/28	認知症勉強会	鍋田管理者
12/20	事故防止勉強会	事故防止委員会
1/23	身体拘束に関する勉強会	窪田施設長
2/13	褥瘡予防勉強会	㈱曽我商会

5. 園外研修　　別紙１

6. 施設見学

月日	団 体 名	
9/10	社会福祉法人　悠友会	18名
3/15	伊予市包括支援センター　介護者のつどい	15名

7. 施設実習

月日	団 体 名	人数
10月～12月	河原学園（歯科衛生士）	40
10/2～10/4	愛大看護学科施設実習	7
10/30～11/1	愛大看護学科施設実習	6
11/27～11/29	愛大看護学科施設実習	6

8. 行事

	行　　事
4月	花見
5月	運動会　母の日会　フレンドリー祭り　演芸会
6月	お神楽　ホタルまつり　父の日会　焼肉パーティ
7月	風船バレーボール大会　わくわくバイキング
8月	盆踊り大会 合同慰霊祭 そうめん流し 幸せの集い　老人クラブ交流会
9月	ぶどう狩り　敬老会
10月	居酒屋「観月祭」地方祭　わくわくバイキング
11月	文化祭（野点・演芸会・バザー）
12月	クリスマス会　しめ縄作り　餅つき　忘年会
1月	歳旦祭　初詣　新年会　餅つき
2月	節分「豆まき」　わくわくバイキング
3月	風船バレーボール大会

9. その他

月日	主 な 内 容
4/11	害虫駆除
4/14	入所判定会
5/10	害虫駆除
5/17	カーペット清掃
6/5	監事監査
6/8	害虫駆除
6/12	第1回理事会
6/27	第1回評議員会
7/1	循環配管除菌洗浄
7/3	害虫駆除
7/12	入所判定会
7/12	第2回理事会・評議員会
7/13	全館掃除
7/17	消防設備点検
7/19	避難通報訓練
7/25	レジオネラ菌検査
8/7	害虫駆除
9/5	害虫駆除
10/2	害虫駆除
10/11	入所判定会
11/6	中予地方局・伊予市監査
11/16	害虫駆除
11/16	カーペット清掃
12/6	害虫駆除
12/13	全館掃除
12/17	地震防災訓練・風水害避難訓練
1/7	害虫駆除
1/15	入所判定会
1/16	くりのみ監査
1/16	消防設備点検
2/5	害虫駆除
2/9	地下タンク漏洩検査
3/11	害虫駆除
3/12	第3回理事会
3/15	受水槽清掃
3/22	避難通報訓練
3/27	第3回評議員会

別紙1

研　修　会　参　加　記　録

平成30年度

No.	日	程	研　修　会　名	開催地	参加者氏名	備考
1	4月21日		平成30年度　介護支援専門員協会　総会	砥部町	滝下八千代	
2	5月3日		中小企業同友会　総会	松山市	高本英昭	
3	5月11日		愛媛県老施協　第1回施設長会	松山市	窪田里美	
4	5月22日		愛媛県ボランティア・市民活動センター「生活課題解決委員会」	松山市	高本英昭	
5	6月4日		第14回　愛媛県老人福祉大会	松山市	窪田里美・今井智之 久保伊津子・城亜由美	
6	6月8日		平成30年度全国安全週間実施要綱等説明会	砥部町	権田哲郎	
7	6月11日		愛媛県相談支援協会総会	松山市	矢野雄大	
8	6月12日	～6月13日	平成30年度愛媛県強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）	松山市	森平澄子	
9	6月16日		愛媛県精神協　総会・研修会	松山市	矢野雄大・森平澄子	
10	6月20日		2018年度第6回合同企業説明会	松山市	権田哲郎・一木達矢	
11	6月22日		防災に関する社会福祉施設管理者向け説明会	砥部町	一木達矢	
12	7月1日		えひめ排せつケア研究会	東温市	武智恵子	
13	7月4日	～7月5日	老施協　四国大会	徳島県	窪田里美・今井智之	
14	7月9日		平成30年度愛媛県強度行動障がい支援養成研修（基礎研修）	松山市	矢野雄大	
15	7月11日		特定給食施設等関係者研修会	松山市	小川千明	
16	7月19日		介護機器研修会	松山市	西山美保子・松本菜摘	
17	7月23日	～7月24日	平成30年度愛媛県強度行動障がい支援者養成研修（実践研修）	松山市	森平澄子	
18	7月26日		IT導入補助金活用説明会	松山市	権田哲郎	
19	7月28日		高齢者の褥瘡と排せつケア	宇和島市	尾崎美津子	
20	8月11日		愛媛県老施協　デイサービスセンター職員研修会	松山市	森田孝志・今井智之	
21	8月21日		平成30年度愛媛県精神障がい者支援の障がい特性と支援技法を学ぶ研修	松山市	矢野雄大	
22	9月7日		全国安全週間実施要綱等説明会	砥部町	権田哲郎	
23	9月22日		老施協　介護を科学する和光方式による自立支援	松山市	窪田里美	
24	9月27日		軽費・ケアハウス・養護老人ホーム職員合同研修会	松山市	森川大	
25	9月28日		中予老施協　感染症対策研修会	松山市	西岡美紀	
26	10月9日		安全運転管理者講習	松前町	一木達矢	
27	10月17日		指定障害者福祉サービス事業者に対する集団指導	松山市	矢野雄大	
28	10月26日		中予老施協　相談員・事務員研修会	松山市	一木達矢	
29	10月30日		愛媛県老施協　ポジショニング研修会	松山市	一木達矢	
30	11月7日		感染症研修会	松山市	奥野幸恵	
31	11月13日		年金委員・健康保険委員研修会	松山市	権田哲郎	
32	11月18日		病院及び社会福祉施設防災安全対策研修会	伊予市	中野兼作	
33	11月20日		平成30年度年末調整について	松山市	権田哲郎	

No.	日	程	研　修　会　名	開催地	参加者氏名	備考
34	11月23日		えひめ排せつケア研究会　第1回事例検討会	松山市	神川愛子	
35	11月29日		中予老施協　給食研修会	松山市	小川千明	
36	11月30日		施設ケアマネジメント研修会　看取りのプランニング	松山市	松下佐嘉恵	
37	12月18日		平成30年度伊予市保健福祉医療連絡会	伊予市	窪田里美	
38	12月22日		えひめ排せつケア研究会　第2回事例検討会	松山市	金山正江・武智恵子	
39	1月11日		中予老施協　認知症研修会	松山市	窪田里美・西山美保子・久保伊津子	
40	1月18日	～ 1月19日	老施協　四国セミナー	松山市	窪田里美	
41	1月27日		伊予市高齢者福祉施設救命講習	伊予市	上岡滋	
42	1月31日		高齢者施設等における感染症（HIV感染症等）に関する研修会	松山市	水口秋子	
43	2月13日		社会福祉法人の法令遵守研修会	松山市	高本英昭	
44	2月13日		年金・健康保険委員研修会	伊予市	権田哲郎	
45	2月13日		身体拘束廃止職員研修会	松山市	横山裕輝	
46	2月14日		法務省主催「新たな外国人人材の受入等に係る制度説明会」	松山市	権田哲郎	
47	2月22日		平成30年度退職共済実務者研修	松山市	一木達矢	
48	2月26日		家族による家族学習会セミナーinえひめ	松山市	矢野雄大	
49	2月27日		外国人介護人材の受入に関するセミナー	松山市	高本英昭	
50	3月1日		愛媛県老施協　施設長会	松山市	窪田里美	
51	3月12日		軽費・ケアハウス戦略会議	松山市	森川大	
52	3月18日		デイサービスセンター戦略会議	松山市	鍋田陽二・今井智之	
53	3月19日		中予老施協　総会・施設長会・研修会	松山市	窪田里美・横山裕輝	
54	3月30日		リハビリテーション栄養のすすめ	松山市	小川千明	

指定介護老人福祉施設　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者の尊厳と自己決定を尊重したサービスを提供すると共に、安全と安心の中で心穏やかに暮らせる生活を援助する。

【具体的取り組み】

利用者個々の今まで培われてきた生活様式や生活習慣の把握に努め、個性や心身の状況に応じてその人らしい生活を支援する。また、生活場面においては、家庭的な環境の中で馴染みの人間関係を構築し、利用者主体の個別ケアに努めると共に、居室内でのプライバシーを確保する。

1.　利用者のニーズに沿った個別ケアと生活支援の実践

（１）食　事　（厨房との連携）

（ア）食べやすく、美味しい食事の提供

（イ）栄養ケアマネジメントの実施

（ウ）衛生管理の徹底等

（２）排　泄

① 利用者個々に合った心地よい、根拠のある排泄ケアを提供するために、事例フォーマットを活用しながら排泄用品の提供を行うと共に、排泄行為に関する援助を適切に行う。

② プライバシー及び、清潔を確保しながら利用者が安心して排泄できる環境作りに努める。

（３）入　浴

① 利用者の希望や状態を定期的に見直し、個々に合った入浴体制を整える。

② 利用者の状況に応じた入浴ケアの知識や技術を身に付け、利用者が安心して入浴できるように努める。

（４）レクリエーション・リハビリ

① 利用者の希望を適宜アセスメントしながら、個別機能訓練及び外出やレクリエーション等を実施し、また、定期的に評価を行う。

③ 離床の機会を増やすことを目指して、リクライニング車椅子の整備や、適したリハビリ用具・介護機器を提供し、生活しやすい環境を整える。

（５）ケアプラン（介護サービス計画）

① 生活歴を基に個人や家族の思いや喜び、心地よさ、生きがい等を追求するため、センター方式を使用し、ケアプランを立案実施する。

② 定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

（６）環境整備

設備及び、器具類等の点検を定期的に実施し、必要な補修、修繕等を行うと共に、利用者個々の状態に合わせて居心地の良い快適な環境の整備を行う。

2. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

3. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

4. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけ、また、コミュニケーション能力を高めて、サービスの質の向上を目指す。

5. 医療的サポート

利用者の健康に対する不安を取り除き、安心して過ごせるよう、看護・介護が一体となって、本人及び家族、医療機関等と連携を図り、健康管理を進める。

（１）健康診断

年２回実施し、その結果を踏まえて必要時医療に繋げる。

（２）感染症対策

勉強会や啓発活動などの年間実施計画表を立案・実施し、予防に努める。また、感染症発生時は、マニュアルに沿った対応を行う。園外研修に参加し、知識の向上を図る。

（３）健康管理

日常における一般状態の把握、自己健康管理への助言、疾病の早期発見及び事故防止と事故発生時の適切な対応を行う。

（４）ターミナルケア（終末ケア）

人生の最期を当施設で暮らすことを望まれた場合、本人や家族の希望を確認しながら嘱託医と連携し､マニュアルに沿ったターミナルケアを行う｡また、穏やかで安らぎのある日々を提供できるよう支援する。

（５）褥瘡対策

褥瘡対策チームにて、褥瘡のリスク管理と褥瘡発生時の対応を適切に行う。

【重点目標】

- 介護保険制度改正を念頭に看取り体制の充実や褥瘡予防及び、栄養ケアマネジメントの機能強化に向けて多職種間で連携しながら取り組む。
- 介護ロボットを含む介護機器の導入、機械化によりスタッフの負担軽減（腰痛予防）及び、業務の効率化を目指す。
- 利用者の重度化に応じた入浴、排泄、移乗等の再アセスメントを実施し、個別ケアの充実を図ることで利用者一人ひとりの尊厳を守ると共に、高品質なサービス提供に繋げる。
- 事故予防・防止など、安全対策の強化として、環境面の安全点検や入居者の特性に応じた各種福祉用具を導入、活用することにより、利用者、職員共に安心、安全で機能的な生活環境の実現に取り組む。
- 家族会と連携しながら、施設サービスや生活、環境面の評価を行い、ケアの質の向上に繋げると共に、家族会活動の推進及び、機能強化を目指す。
- 地域内の福祉ニーズを探りながら積極的に地域貢献活動に取り組む。

【総合評価】

達成度（%）　　８０％

＜評価＞

☑ 制度改正に伴う看取り体制に関する機能強化や新たに創設された褥瘡予防、排泄ケア等についての取り組みについては個別のアセスメントや生活課題等を整理し、各専門職との連携を図りながら概ね適正に対応できた。

☑ 腰痛予防や業務効率化等、介護負担軽減についての取り組みとして介護用リフトの新規整備に向けた準備作業を進め、更には安全運用に関する研修等事業所内でのフォローアップ体制の構築に努めた。

☑ 事故予防、防止の取り組みについては、今年１月下旬に連続して３件の骨折事故が発生したことから、事故検証機能の精度向上や再発防止対策等の評価を行ったが、重大事故の防止やヒヤリハットの有効活用、未然防止対策等、多くの課題が残った。

☑ 家族会活動の機能強化及び連携等については、例年実施している施設見学や行事実施時における参加協力等、活動の主旨が徐々に家族に浸透しつつあり、今後も積極的に取り組み、更なる信頼構築に努めたい。

☑ 各地区、集会所や公民館等において開催される行事での講演依頼等にも出向き、また、各種イベント開催時にも参加し、様々な相談事や情報発信等、活動の幅を拡大している。

指定介護老人福祉施設（定員　３０名）

１．市町村別

H31.3.31

出 身 地	男　　性	女　　性	合　　計
伊予市（中山町）	7	19	26
伊予市（双海町）		2	2
伊予市（旧伊予）		2	2
合　　計	7	23	30

２．年齢構成

H31.3.31

年 齢	男性	女性	合計
～64歳			
65～74歳	1		1
75～79歳		1	1
80～84歳	3	2	5
85～89歳	2	10	12
90～94歳	1	7	8
95～99歳		2	2
100歳～		1	1
合　　計	7	23	30

平均年齢

男　　性	83歳　9ヶ月
女　　性	89歳　8ヶ月
全　　体	88歳　4ヶ月

３．在籍期間

H31.3.31

在 籍 期 間	男性	女性	合計
1年以内	1	5	6
1年以上～2年未満	1	4	5
2年以上～3年未満	2	2	4
3年以上～4年未満		3	3
4年以上～5年未満		1	1
5年以上～6年未満	1	1	2
6年以上～7年未満		1	1
7年以上～8年未満			
8年以上～9年未満		3	3
9年以上～	2	3	5
合　計	7	23	30

４．身体状況

障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

H31.3.31

	男性	女性	合計
正常			
J1			
J2		1	1
A1	2	4	6
A2	1	5	6
B1		4	4
B2	3	7	10
C1	1		1
C2		2	2
合計	7	23	30

※「障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」による

認知症高齢者の日常生活自立度

H31.3.31

	男性	女性	合計
正常			
Ⅰ		1	1
Ⅱa	1	1	2
Ⅱb	1	2	3
Ⅲa	2	9	11
Ⅲb		1	1
Ⅳ	3	7	10
M		2	2
合計	7	23	30

※「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」による

５．要介護度の推移

H31.3.31

	男性	女性	合計
要介護1		1	1
要介護2	1	1	2
要介護3	1	2	3
要介護4	5	10	15
要介護5		9	9
合　計	7	23	30

H30.3.31

	男性	女性	合計
要介護1			
要介護2	1	2	3
要介護3	1	3	4
要介護4	7	10	17
要介護5		6	6
合　計	9	21	30

H29.3.31

	男性	女性	合計
要介護1		2	2
要介護2		1	1
要介護3	1	2	3
要介護4	6	8	14
要介護5	2	8	10
合　計	9	21	30

H28.3.31

	男性	女性	合計
要介護1		1	1
要介護2		1	1
要介護3	1	6	7
要介護4	4	5	9
要介護5	1	10	11
合　計	8	22	29

	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3
要介護1	1	2		1
要介護2	1	1	3	2
要介護3	7	3	4	5
要介護4	9	14	17	13
要介護5	11	10	6	9
合　計	29	30	30	30
平　均	4	4	3.8	3.9

６．入退居状況

平成30年度

	在籍者数		入退居者				
	平均入居者数	のべ人数	在籍者数	入居者	退居者		
					施設死亡	病院死亡	その他
	人	人	人	人	人	人	人
4月	29.9	896	31	1		1	
5月	30.0	929	31	1	1		
6月	30.0	900	30				
7月	30.3	940	32	2			
8月	31.9	988	32		1		
9月	31.6	947	32	1			1
10月	30.0	929	32		2		
11月	29.8	895	31	2	1		
12月	30.0	930	30				
1月	30.0	930	31		1		
2月	28.9	837	31	1			
3月	30.0	930	30				
合計		11,051		8	6	1	1

稼働率

平成３０年度	100.92%
平成２９年度	99.60%
平成２８年度	100.30%
平成２７年度	100.02%

７．入院状況

平成30年度

	入院日	退院日	病　　名	日数	入院場所	備考
1	4月13日	4月20日	脳出血	8	県立中央病院	退居
2	10月13日	10月17日	右左大腿付け根部骨折	5	西村外科	
				13		

入院延べ日数

平成30年度	13日
平成29年度	44日
平成28年度	67日
平成27年度	17日

８．受診状況

平成30年度

	総数	内科		外科		精神科		整形		皮膚科		泌尿器科		眼科		歯科		耳鼻科		婦人科		救急
		内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	
4月	105	75	3			10										17						
5月	121	89	3			14									1	13	1					
6月	116	72	3			10									1	26	4					
7月	121	82	1		1	11			1						1	23	1					
8月	88	52	3		2	12										19						
9月	106	75	2			12										17						
10月	133	106	2		1	11									1	12						
11月	121	79	3		1	17										17	4					
12月	104	75				10							1			17	1					
1月	104	72			3	12										17						
2月	102	67			2	10			1				1			20	1					
3月	98	65	2			10			1		1					18	1					
計	1,319	931		10		139		3		1		2		4		229						

９．クラブ活動・レク活動

平成30年度

曜日	クラブ・レクリエーション活動
日	ビデオ鑑賞他
月	フラワーアレンジメント他
火	ふれあい時間（爪切り・耳掃除）
水	カラオケ他
木	スポーツ他
金	音　楽　クラブ
土	書　道　・　喫　茶

10．行事

平成30年度

	行　　事
4月	花見
5月	運動会　母の日会　　演芸会　柏餅作り　お神楽
6月	ホタルまつり　父の日会　焼肉パーティ　フレンドリー祭り
7月	風船バレーボール大会　わくわくバイキング　　古城一座演芸会
8月	盆踊り大会 合同慰霊祭 そうめん流し 幸せの集い　老人クラブ交流会
9月	ぶどう狩り　敬老会　　わくわくバイキング
10月	観月祭　地方祭　餅つき
11月	文化祭（野点・演芸会・バザー）　ハーモニカの集い
12月	クリスマス会　しめ縄作り　餅つき　忘年会
1月	歳旦祭　初詣　新年会
2月	節分「豆まき」　わくわくバイキング
3月	風船バレーボール大会　わくわくバイキング

１１．事故報告書他　別紙２

別紙2　　介護老人福祉施設　　なかやま幸梅園　　平成30年度　事故報告書

	月日	性別	事故内容	場所	事故状況	対応・処置等
1	6/23	男	転倒	ホール	トイレ前のソファーに座っていたがソファー前の床に右側臥位に転倒しているところを発見する。単独で立ち上がった直後に転倒したと思われる	左目尻に約3㎝亀裂及び出血あり。バイタル測定。意識レベルは問題なし。主治医連絡。止血状態にて、家族連絡し、主治医にて診察希望あり。受診し、3針縫合処置。ゲンタシン軟膏+ガーゼ保護及び、化膿止め処方となる
2	8/25	男	裂傷	ホール	申し送り中に「ドン」と音がし振り返ると床に両膝を付き、両手はテーブルに置いた状態で鼻から出血している状態を発見する	直ちに、ご家族及び、主治医に連絡。家族は主治医にて治療希望との意向であったが主治医診察し、傷の状態から救急病院受診の指示あり。松山市民病院へスタッフにて搬送。傷の処置後、化膿止め処方され帰園
3	9/10	女	骨折 (原因不明)	居室	排泄ケアにて訪室した際、右上腕から肩にかけて腫れ、熱感、内出血を発見する。触れると「あー」と声を出し、苦痛の表情や少し呼吸が荒くなる様子あり	直ちに電話にて看護師に状態報告。バイタル確認実施。その後、クーリング実施。右側臥位は不可との指示。家族、主治医に連絡。その後、受診。家族は主治医にて保存的治療希望とのことにて鎮痛薬及び、湿布処方され帰園。経過に注意しながら様子観察指示
4	10/2	女	裂傷	ホール	食堂ホールにて「ドン」と音がし、確認すると車椅子の傍で左側臥位で、左目横から出血している状態を発見する。同じテーブルの利用者に確認するが状況を見ておらず、食堂ホールにいたスタッフ2名も他の利用者の対応や記録等で正確な状況は不明	直ちに圧迫止血を行い、バイタル測定。左膝にも擦過傷あり。主治医へ連絡し受診の指示あり、左目裂傷3針縫合処置。1回/日、消毒継続指示あり。受診後、家族へ連絡し謝罪。事故概要及び、受診結果等、報告する
5	1/14	男	転倒	不明	居室に誘導後、ベッド横に至ると急に座り込む様子あり、本人より「足が痛いんよ」との訴えあり。足の付け根辺りを触る仕草あり。その際は腫れ、熱感等は確認されず、その後も、痛みの訴えは継続して聞かれる	翌朝、家族、主治医へ連絡し、受診。レントゲン検査にて右大腿骨不完全骨折との診断。主治医より専門医への受診の指示あり、翌日、家族同伴にて整形受診。家族はOPE希望せず、施設での対応を希望し、帰園の運びとなる
6	1/14	男	骨折 (移乗時？)	居室	パット交換時に右足に触れた際、強い痛みの訴えあり。下衣類を下げて確認すると右下肢に腫れ、熱感あり。バイタル測定。発熱38.1度あり、看護師報告する	翌朝、家族同行にて、主治医受診する。レントゲン検査にて右大腿骨骨折との診断。主治医から家族へ今後の治療等について確認する。このまま施設で主治医の可能な範囲での治療を希望
7	1/18	女	ずり落ち	ホール	本人をトイレ誘導後、間もなくして車椅子から床に座り込んでいるのを発見。本人より痛みの訴えあり。(以前から継続していた)看護師報告する。その後も、継続して痛みの訴えあり	翌朝、主治医受診する。レントゲン検査にて右大腿骨頚部骨折との診断。帰園後、家族に受診結果及び、今後の治療等について相談し、入院治療は希望せず、施設での保存的治療を希望
8	3/20	男	打撲	トイレ	トイレ誘導後、手摺りを持ち立ち上がり、車椅子を移動しようとした際に手摺りを持ったまま左に旋回しながら転倒した。ナースコールにて他のスタッフを呼び、二人介助でトイレに移乗した。左耳後ろに擦過傷を確認。また、腰部にも線状の傷を確認した	看護師報告。ﾊﾞｲﾀﾙ測定。主治医に報告し、様子観察の指示。その後、頭部打撲の可能性もあることから夕方受診し、患部消毒。声掛けによる反応や、両上肢、眼球の動き等、確認にてし、特に異常なしとの所見。その旨、家族報告する

ヒヤリハット　件数　28件

発生状況としては軽微な転倒、ずり落ち等の事故が多くを占めるが、一時期、集中して発生した重大事故(骨折事故等)の中には不適切な移乗介助の可能性が含まれることから、今後は安全を確保する基本的な介助方法の再確認や、予防対策の効果、更には設備や環境面等、多角的視点での評価、検証を重ねる必要がある。

事故発生状況　　2018　　介護老人福祉施設 なかやま幸梅園

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有	3		1									4
	無	7	2	2			2						13
居　室	有	1										2	3
	無	6		5	1					2		2	16
食　堂	有												
	無												
トイレ	有												
	無	2											2
浴　室	有											1	1
	無	1								2			3
デイルーム（娯楽室）	有												
	無												
施設外	有												
	無												
その他	有												
	無	1											1
小　計	有	4		1								3	8
	無	17	2	7	1		2			4		2	35
合　計		21	2	8	1		2			4		5	43

指定短期入所生活介護事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者及び、その家族のニーズや課題の把握に努め、利用者の有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、サービスを提供する。また、各関連機関との連携を図りながら、利用者の心身機能の維持向上と家族の身体的・精神的負担を軽減することにより、在宅生活が継続できるよう支援する。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2.　機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（１）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（２）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

3.　健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（１）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（２）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8.　地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

【重点目標】

- 利用者一人ひとりが安心して在宅生活を継続できるよう、引き続き家族、居宅介護支援事業所、各関係機関及び、他のサービス事業所との連携強化を図る。
- 複数のサービス事業所を利用する利用者の増加に伴い、個々の心身状態や介護方法等の情報を共有し、利用者、家族の希望に沿ったサービス提供に繋げる。
- 医療依存度の高い利用者や、終末期、感染症の流行時季における受け入れ等、介護ニーズの多様化する中、医療機関や各関係機関と連携しながら、柔軟かつ、円滑な受け入れ及び、適切なサービス提供体制の構築を図る。
- 各種災害の発生に備えて、引き続き避難訓練の実施や地域防災組織等との連携を図りながら利用者、職員の安全確保に向けて災害時の体制整備に努める。

【総合評価】

達成度(%)　　９５％

＜評価＞

☑ 家族、居宅介護支援事業所、各関係機関及び、他のサービス事業所との連携しながらサービス提供を行った。

☑ 関係サービス事業所等との心身状態や介護方法等の情報を共有しながら、利用者、家族の希望に応じたサービス提供に繋げた。

☑ 医療依存度の高い利用者や、終末期での受け入れについては、医療機関や各関係機関、担当ケアマネと連携しながら、概ね適切にサービス提供が行えた。

☑ 今年度は昨年 7 月に発生した西日本豪雨や台風の影響により要避難者の緊急的な受け入を行った。今後も災害発生のリスクが高まる中で、引き続き地域防災組織等との連携や、利用者、職員の安全確保に向けた体制強化が必要である。

指定短期入所生活介護（介護予防）事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者の生活課題や家族の抱える様々な問題やニーズを的確に把握すると共に、各関係機関及び、地域との連携を強化して利用者の精神的安定と身体機能の維持向上を目指した介護予防サービスを行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2.　機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（１）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（２）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

3.　健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（１）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（２）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8.　地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

【重点目標】

- 利用者一人ひとりが安心して在宅での生活が継続できるよう、引き続き、家族、居宅介護支援事業所、各関係機関及び、他のサービス事業所との連携強化を図る。
- 要介護状態にならないよう、自立支援（介護予防）に重点を置き、利用者の状態を踏まえつつ、利用者及び、家族の希望に沿ったサービス提供を行う。
- 家族の都合等、緊急的な利用希望等に対して、柔軟で円滑な受け入れを行うと共に、適切なサービス提供を行う。
- 各種災害の発生に備えて、引き続き避難訓練の実施や地域防災組織等との連携を図りながら利用者、職員の安全確保に向けて災害時の体制整備に努める。

【総合評価】

達成度（%）　　９０％

＜評価＞

☑ 家族、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所及び、他のサービス事業所等と連携しながら概ね適切にサービス提供を行った。

☑ 併用するサービス事業所等との心身状態や機能訓練等方法等の情報を共有しながら、利用者、家族の希望に応じたサービス提供に繋げた。

☑ 家族の都合等により、地域包括支援センターや居宅介護支援事業からの利用希望に対しては柔軟に受け入れ対応を行った。

☑ 今年度は昨年 7 月に発生した西日本豪雨や台風の影響により要避難者の緊急的な受け入れを行った。今後も災害発生のリスクが高まる中で、引き続き地域防災組織等との連携や、利用者、職員の安全確保に向けた体制強化が必要である。

平成30年度　　**指定短期入所生活介護事業所 なかやま幸梅園 利用実績**

１．事業内容　区分: 短期入所生活介護〔併設型〕
体制: 送迎体制〔あり〕

２．開所日数　:　365 日

■ 利用定員　:　10名　※4/1～10/31迄 定員8名

■ 稼働率　:　96.2%

■ サービス期間　:　平成30年4月1日～平成31年3月31日

３．利用実績

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用者数		29	31	28	30	28	29	28	33	31	22	25	26	340
介護度別利用状況	要支援1													
	要支援2	10	11	10	11	12	11	12			7	16		100
	要介護1	20	21	34	25	32	25	21	30	21	21	16	34	300
	要介護2	52	46	44	73	88	88	82	127	106	83	86	115	990
	要介護3	64	81	68	70	30	42	38	46	54	51	29	44	617
	要介護4	98	86	75	67	54	49	65	57	57	70	82	97	857
	要介護5	6	10	10	17	30	29	31	28	33	23	9	10	236
	合 計	250	255	241	263	246	244	249	288	271	255	238	300	3,100
	1日平均	8.3	8.2	8.0	8.5	7.9	8.1	8.0	9.6	8.7	8.2	8.5	9.7	8.5
送迎利用実績		95	104	109	98	95	91	90	97	85	76	59	79	1,078

短期入所生活介護事業所　　なかやま幸梅園　　平成30年度　事故報告書

	月日	性別	事故内容	場所	事故状況	対応・処置等
1	1/15	女	打撲	トイレ	ショート退居後の翌日正午頃に家族より「泊まりに行っとった時にトイレで転んだ」と訴えているとの連絡あり	当日の出勤スタッフに確認したが、特に本人からの訴えや変わった様子は確認できず、退居直前にトイレ誘導したスタッフも異常はなく普段通りの歩行状態であったことを確認。施設での転倒の可能性もあることから、翌日、受診レントゲン検査にて骨に異常なく、痛み止めの注射及び湿布処方される。
2	2/13	女	打撲(骨折)	居室	居室にて着替えの声掛けを行った際、左脇腹付近の強い痛み訴えあり。その後も継続して強い痛みが継続した為、家族に連絡し主治医受診した	家族に受診同行依頼。左肋骨(6番目)骨折との診断。病院での付添い等は出来ないとの事にて施設での対応希望され引き続き、ショート継続利用となる。見守り体制確保の為、居室を静養室に変更し、居室内の環境整備を行う

ヒヤリハット件数　6件

発生件数としては大幅に減少しているが、転倒等の伴わない骨折事故や、発生場所の特定が困難なケースもあったことから、今後は家族から入居時の状態確認や退居の際にも利用時の様子を報告する等、家族との情報共有は基より、担当ケアマネ、医療機関や他のサービス事業所等との連携も重要である。

事故発生状況　　2018　　短期入所生活介護事業所 なかやま幸梅園

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有												
	無	3										1	4
居 室	有	1											1
	無	1		2									3
食 堂	有												
	無												
トイレ	有			1									1
	無											1	1
浴 室	有												
	無												
デイルーム（娯楽室）	有												
	無												
施設外	有												
	無												
その他	有												
	無											1	1
小 計	有	1		1									2
	無	4		2								3	9
合 計		5		3								3	11

苦情発生の状況

No.	月　日	性別	苦情内容	苦情状況	解決内容等
1	11月26日	女	貴重品管理の件	ショートステイ利用時に現金を所持しており事務所金庫にて管理したが、退居時に返却しておらず、本人から問い合わせがあった際にも、スタッフ内部での連絡等の情報共有が出来ていなかったことで、本人への対応に不備が生じた。	■現金所持を確認し、金庫に預かる場合は必ず「物品台帳」に記載する。 ■事務所保管とする際の様式を作成し、事務スタッフとも連携を図る。 ■重要な要件については担当者が休みであっても電話等で連絡や報告、確認等を行うこと。 ■苦情の案件等については担当者内部での情報整理や確認等を十分に行った上で先方との対応に臨むこと。

総合福祉施設　なかやま幸梅園　厨房

【基本方針】

利用者個々の疾病、体調、身体機能等に応じた食事の提供を行い、食べる喜びを引き出し維持、向上できるよう、食事内容の工夫を心がける。

【具体的取り組み】

1.　安全で、安心な、美味しい食事の提供

（１）食事委員会や嗜好調査などに基づき利用者の意思を尊重し、多職種と連携し、食事内容・食事形態の見直しを行い、より美味しく・食べやすい食事が提供できるよう工夫をする。

（２）療養食、軟菜食、ソフト食を含む、個人対応食の充実に努める。

（３）年間計画を作成し、四季を感じられる行事食を提供する。

（４）おやつのメニューを増やし、利用者の満足度を高める。

（５）各事業所における、調理レクリエーション・おやつ作りレクリエーションへの提案や協力を行う。

（６）大量調理マニュアルに沿って調理を行い、衛生管理に努める。

（７）検食者からの意見を把握し、改善が必要な場合は早急な対応を行う。

2.　栄養ケアマネジメントの実施

（１）施設のケア計画と栄養マネジメントを連動させ計画立案する。

（２）利用者個々の栄養状態に基づき栄養管理計画書を作成し、個々に応じた低栄養改善を含む栄養管理を行う。

（３）栄養計画書の定期的評価・見直しを行い、体調管理の維持・向上に繋げる。

（４）利用者の経口維持、自力摂食を継続できるようサポートする。

（５）入所者が入院した場合入院先医療機関と連携を図り栄養管理を行う。

3.　リスク管理

（１）大量調理マニュアルの趣旨を踏まえた衛生管理の徹底を図る。

（２）異物混入等のヒヤリハットを防ぐための検討、取り組みを行う。

（３）トラブル発生時の対応がスムーズに行えるようマニュアルを整備し、未然に防ぐ工夫をする。

4.　防災対策

（１）施設内の防災訓練に積極的に参加し、非常時の行動を身に付ける。

（２） 災害時メニューを作成し、備蓄食品の管理を行う。
（３） 常に備蓄品の必要量を満たしているよう、定期的に消費期限チェックを行い、在庫管理する。

5. 職員教育

（１） あいさつ・言葉遣い・身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの向上を目指す。
（２） 研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を高める。
（３） 感染を発症させないよう、調理方法を確立するための教育を実施する。
（４） 他部署（多職種）と連絡体制を強化し、情報を共有することにより、業務が円滑に進むよう対応する。

6. その他

（１） 食材・水道・ガス・光熱費など、コスト削減（節約）への意識向上と実施。
（２） 他事業所への出張調理を計画的に行い、他事業所との連携を強化する。

【重点目標】

- 行事食・わくわくバイキングを計画的に実施し充実を図る。
- 手作りおやつ、おやつバイキングを充実させる。
- 食事委員会との連携強化を図りながら厨房会を定期的に開催し、厨房スタッフ全員の意識統一を図る。
- 厨房内の定期清掃の計画を立案し、実施する。
- 非常時、緊急時対応マニュアルの見直しを行い、イメージトレーニングと訓練を実施する。
- 自然災害時に備え、利用者・職員を含む非常食のメニューを作成し、メニューに沿った備蓄品を確保する。消費期限をチェックし、在庫管理を行う。
- 仕事しやすい調理環境作りへの意識を強化する。
- 平成 30 年度の介護報酬制度改正に伴う管理栄養士の業務拡大に対し業務点検を行い業務改善することで、適切に処理する。

【総合評価】

達成度(%)　　85%

＜評価＞

☑ 行事食は他部署の協力を得ながら計画的に取り組むことができた。しかし年間 6

回予定していたわくわくバイキングは4回しか実施できなかった。

- ☑ 手作りおやつについては、四季折々の手作りおやつを提供できた。
- ☑ 毎月1回の厨房会は開催できない月もあったが、嗜好調査・食事委員会での決定事項等は厨房スタッフで検討し対応できた。
- ☑ 毎日の清掃、月1回のエアコンフィルターの交換、定期的な厨房機器等の清掃を実施した。
- ☑ 台風時等、非常時を想定しながら緊急時対応マニュアルの見直しを行うことができた。
- ☑ 非常食のメニューを作成し、メニューに沿った備蓄品の在庫管理と購入、消費期限終了前には、通常食材を加えて調理を行い、食事の1品として提供する事もできた。
- ☑ 厨房内の棚の配置等を見直し、整理整頓を行い動線を広げるなど、調理環境を整えた。
- ☑ 介護報酬制度の改正に伴う管理栄養士の業務拡大に対して、業務点検を行い業務改善に取り組んだ。

ケアハウス　なかやま幸梅園

【基本方針】

入居者の生活様式や生活習慣の違いを把握し、個人に必要な援助を行うと共に、集団生活での喜びや楽しさを実感できる家庭的で温もりのある施設を目指す。

居宅介護支援事業所、在宅サービス関連機関との連携を図り、心身共に健康で充実した生活ができるよう支援する。

【具体的取り組み】

1.　健康管理

日頃から入居者の表情や状態を観察し、医療機関、家族との連携に努め、早期に対応ができるよう配慮する。

（１）定期的及び状態に応じて健康チェックを行い、必要時には医療機関及び家族への連絡調整に努める。

（２）健康診断の場の提供及び予防接種の推進を行い疾病予防､早期発見に努める。

（３）入居者の急激な体調の変化に対し、家族、医療機関等への連絡調整に努め、迅速に対応できる体制をとる。

（４）感染症や食中毒の予防に向け、日常的に手洗い、消毒、うがい等の声かけを行い、必要に応じて家族や外部への協力を依頼する。

（５）定期薬の配布及び服薬確認等の対応を行う。

（６）毎月看護師による健康相談日を設け、一層の健康管理に努める。

2.　リスク管理

事故防止に努め、事故原因の検証、必要に応じた対策を講じる。

（１）身体機能維持、転倒予防に向け、足腰・口腔の体操を毎日実施する。

（２）地域包括支援センター及び、居宅介護支援事業所と連携し、安全管理に対する環境整備、個人に必要な介護用品、介護機器等の対応を行う。

（３）「ヒヤリハット」や軽度の事故についても検証し、再発防止に向け対策を講じる。

（４）外出外泊時の事故を防止するため、家族にも見守りや援助等の協力を依頼する。

（５）夜間、早朝の事故については、緊急時対応マニュアルに沿って、迅速に対応する。

（６）入居者が使用している福祉用具の点検を、定期的に実施する。

3. 自立生活の支援

安心してケアハウスでの自立生活が継続できるよう支援する。

（1）定期的に本人、家族、介護支援専門員、サービス関係機関及び、ケアハウス職員による担当者会議を行い、自立支援に向けた体制作りに努める。

（2）日常生活に援助を必要とする入居者には、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所と連携し、本人及び家族等の要望に沿った各種福祉サービスが利用できるよう配慮する。

4. 相談、助言、苦情処理

入居者や家族等からの相談、要望、苦情等には誠意をもって対応する。

（1）入居者及び家族からの相談、要望、苦情等には迅速かつ柔軟に対応する。また、必要時には専門職からのアドバイスも交え、適切な助言に努める。

（2）毎月入居者懇談会を実施し、苦情、要望等の確認及び対応に努める。

（3）必要に応じて家族との懇談会を開催し、施設の方針や情報の提供を行うと共に家族からの意見、要望に迅速に対応する。

5. アクティビティサービス

入居者同士の親睦及び、心身の活性化を図る活動や行事を計画し実施する。

（1）入居者の希望及び、状態に応じた活動を計画し実行する。

（2）入居者の要望に応じた外出、外食を実施する。

（3）創作する喜び、花木を育てる楽しみが味わえる活動を提供する。

（4）ボランティアの協力を得て、楽しく活動に参加できるよう支援する。

6. 防災対策

定期的に災害訓練を実施し､火災をはじめ地震､風水害等災害発生時に迅速かつ、適切な避難行動ができるよう入居者、職員の防災意識の向上を図る。

（1）定期的に防災訓練を実施し、日頃から災害についての説明や話し合いを行い意識の向上に努める。

（2）公用スペース及び居室内の家具類転倒防止等、安全点検を行い、必要な対策を講じる。

（2）電気機器や火の取り扱いについて入居者に注意を呼び掛けると共に、定期的に点検を実施する。

7. 職員間の連携と質の向上

検討課題の発生時は、職員間で早急に検討し、統一した対応や支援が行えるよう

努める。

（１）報告、連絡、相談を徹底すると共に、定期的にケアハウス会議を開催し、統一した処遇を行う。

（２）研修会、講習会、勉強会等に積極的に参加し、知識の向上、技術の習得に努める。

（３）各事業所からの情報収集に努め、施設全体の動向に対処する。

（４）自らの接遇のあり方について適宜、職員間で話し合いを行い入居者、来園者に対し、質の高い接遇を目指す。

8. 環境整備

施設内の器具の点検、不良箇所の修繕を行う。

（１）定期的にベランダの清掃、物置き等の整理整頓を行う。

（２）居室内の建具、電気器具等の点検修理、及び必要に応じた取り換え等を実施する。

9. 地域貢献

地域住民との積極的な交流を図る。また、施設周辺の清掃作業等行い、環境美化にも貢献する。

（１）市が管理する幸梅園上り坂付近の土止め箇所の草引き及び清掃を行う。

（２）地域の環境美化に貢献する。

（３）地域の夏祭りや行事､運動会など積極的に参加し､地域住民との交流を図る。

【重点目標】

- 障がいがあっても社会資源等を活用しながら、安心して自立生活が継続できるよう支援する。
- 入居者との面談を適宜実施し、個々の課題及びニーズの把握に努め、ケアプランに沿った支援計画を作成し、その人らしい生活が継続できるよう支援する。
- 入居者の希望や生活暦等を確認し、過去に訪れた地域及び、関わりの深い場所への外出活動を計画し実施する。
- クラブ活動では、個々に応じた活動を提供し、入居者同士がお互いを認め合う関係性の構築に努め、親睦が深まるよう支援する。
- 訓練時に、居室に設置してある防災頭巾を活用する。
- ケアハウスで育苗した花苗を提供し、地域住民と共同で植え付けを行い、地域の環境美化に貢献する。

【総合評価】

達成度（%）　　70%

＜評価＞

☑ 入居者、家族の要望に沿って、介護保険サービスの導入や、居室の環境整備を行い、安全に過ごせるよう支援した。結果、転倒事故は減少傾向である。

☑ 入居者との面談は適宜行うことはできなかった。しかし、ニーズの確認、把握に努めケアプランに沿った支援計画を作成した。

☑ 入居者の希望に沿った外出を計画、実施することで喜びの声が聞かれた。

☑ 個々が得意な作業を提供し、共同で創作活動を行うことで、より良い作品の制作に繋げた。良い作品が完成することで、創作する喜びやお互いを認め合う関係性が構築されている。

☑ 定期的に防災頭巾の着用を促すことで、訓練時には着用の意識が向上している。

☑ ケアハウスで育成した花苗を入居者、地域住民と植え付けをすることで、環境美化と、地域住民との交流に繋げた。

ケアハウス　なかやま幸梅園

１．入居者状況（H31.3.31現在）

・定員　１５名　　《一人部屋　１３室　　二人部屋　１室》

・出身地状況　（単位：人）

出身地	男性	女性	合計
中山町	3	11	14
双海町	1		1
合計	4	11	15

・年齢構成　（単位：人）

年齢層	男性	女性	合計
61歳～70歳			
71歳～80歳	2		2
81歳～90歳	2	5	7
91歳～100歳		6	6
合計	4	11	15

・平均年齢

全体	84.8歳
男性	79.7歳
女性	89.9歳

最高年齢 96歳　7ヶ月

最低年齢 72歳　7ヶ月

・在所期間状況　（単位：人）

期間	男性	女性	合計
１年未満		2	2
１年以上～２年未満		2	2
２年以上～３年未満		1	1
３年以上～４年未満	3	1	4
４年以上～５年未満		2	2
５年以上～６年未満	1	1	2
６年以上～７年未満			
７年以上～８年未満		2	2
合計	4	11	15

・月別入居率状況（月始めの入居人数）　（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	平均
26年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	15	15	14.9
27年度	15	15	15	14	15	15	15	14	14	15	15	14	14.6
28年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15.0
29年度	14	14	14	15	15	14	15	15	15	15	15	15	14.7
30年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15.0

・入居者　　2 名　　平成31年3月31日現在

性　別	年　齢	出　身　地	入居年月日
女　性	85 歳	伊予市中山町	平成30年4月1日
女　性	90 歳	伊予市中山町	平成30年12月21日

・退居者　　1 名　　平成31年3月31日現在

性　別	年　齢	年　月　日	入居期間	理　　由
男　性	64 歳	平成30年12月13日	3年7ヶ月	入院の継続

２.入居者心身状況　　()内は平成29年度状況　　平成31年3月31日現在（単位：人）

障害老人の日常生活自立度（寝たきり度）				認知症老人の日常生活自立度・障害自立度			
ランク	男	女	合計	ランク	男	女	合計
正常	0(0)	0(0)	0(0)	正常	0(2)	0(3)	0(5)
J-1	1(1)	0(3)	1(4)	Ⅰ	2(0)	4(2)	6(2)
J-2	2(3)	6(4)	8(7)	Ⅱ	0(0)	0(1)	0(1)
A-1	0(0)	3(1)	3(1)	Ⅱa	0(0)	1(0)	1(0)
A-2	1(1)	2(1)	3(2)	Ⅱb	0(3)	6(3)	6(6)
B-2	0(0)	0(0)	0(0)	Ⅲa	2(0)	0(0)	2(0)
合計	4(5)	11(9)	15(14)	合計	4(5)	10(10)	15(14)

３．要介護度状況　　平成31年3月31日現在（単位：人）

介護度	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	合計
26年度		4	1	8		2		15
27年度		5	4	3		3		15
28年度	1	2	3	7		1		14
29年度	1	3	3	7				14
30年度	1	4	1	7	2			15

４．在宅福祉サービス利用状況　　家事、身体、訪問リハは利用者数（平成31年3月31日）
通所介護、短期入所は30年度の利用合計日数

利用種別	家事援助	身体介護	訪問リハビリ	通所介護	短期入所
26年度	15名	11名		6日(1名)	97日(2名)
27年度	15名	11名		141日(4名)	57日(4名)
28年度	13名	7名	1名	384日(4名)	9日(1名)
29年度	12名	4名	1名	648日(7名)	5日(1名)
30年度	14名	11名		719日(9名)	18日(2名)

５．受診状況

（　）内は受診者数

月	内科	精神科	脳外科	歯科	整形外科	泌尿器科	その他	合計回数
4	8(8)	1(1)	4(4)	1(1)	4(4)	1(1)	1(1)	20(20)
5	9(9)	1(1)	6(4)	1(1)	4(4)	0(0)	2(2)	23(21)
6	10(9)	1(1)	1(1)	0(0)	5(5)	1(1)	0(0)	18(17)
7	6(6)	1(1)	0(0)	2(2)	2(2)	0(0)	4(3)	15(14)
8	10(9)	1(1)	3(3)	2(2)	5(5)	1(1)	1(1)	23(22)
9	12(10)	2(1)	3(3)	1(1)	4(4)	0(0)	0(0)	22(19)
10	16(10)	1(1)	2(2)	4(3)	5(5)	0(0)	1(1)	29(22)
11	9(9)	1(1)	3(3)	5(3)	2(2)	1(1)	1(1)	22(20)
12	8(8)	1(1)	4(4)	3(3)	4(4)	2(1)	0(0)	22(21)
1	15(13)	1(1)	3(3)	2(2)	3(3)	0(0)	1(1)	25(23)
2	8(8)	1(1)	2(2)	2(2)	2(2)	1(1)	0(0)	16(16)
3	10(9)	1(1)	3(3)	2(2)	3(3)	1(1)	1(1)	21(20)
合計回数	121(108)	13(13)	34(32)	25(22)	43(43)	8(7)	12(11)	256(236)

・対比受診状況

受診科目	内科	精神科	脳外科	歯科	整形外科	泌尿器科	その他	合計
26年度	79	13	3	22	17	0	0	138
27年度	100	12	9	19	3	0	6	153
28年度	182	13	26	35	43	0	2	302
29年度	151	15	20	34	42	0	17	279
30年度	121	13	34	25	43	8	12	256

６．入退院状況

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	合計
26年度人数	1	1	1		1					1			5
入院日数	30	31	2		2					13			78
27年度人数		1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	1	15
入院日数		15	6	26	20	20	5	29	30	43	56	14	264
28年度人数												1	1
入院日数												10	10
29年度人数	1					1					1	1	4
入院日数	12					10					13	23	58
30年度人数					1	2	2	1	1			1	7
入院日数					2	43	34	30	13			4	126

・個人別入院状況

性別	年齢	入院期間	入院日数	病名	入院先
男性	63	H30年 8.29～H30年9.25	27日	心不全	松山赤十字病院
女性	94	H30年 9.17～H30年10.3	16日	肺炎	松山生協病院
男性	63	H30年 9.25～H30年9.26	1日	心不全	道後温泉病院
男性	63	H30年 9.26～H30年10.18	22日	右大腿骨折	松山赤十字病院
男性	63	H30年10.18～H30年12.13	56日	心不全	道後温泉病院
女性	85	H31年 3.27～H31年3.31	4日	心不全	松山市民病院

７．事故状況

No.	月　日	性別	事故内容	場所	事故状況	対応・処置等
1	7月9日	女性	誤嚥	2F廊下	お茶を誤嚥	背部タッピング実施
2	11月8日	女性	誤嚥	車両内	お茶を誤嚥	背部タッピング実施
3	12月9日	女性	転倒	2F娯楽室	バランスを崩し転倒	頭部クーリング実施
4	12月12日	女性	尻もち	2Fホール	ふらついて尻もち	ベッド誘導しBD確認
5	3月27日	女性	トラブル	2F廊下	他の入居者に右肩を叩かれた	湿布貼付

事故発生状況　　2018　　ケアハウス なかやま幸梅園

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有	1											1
	無												
居 室	有												
	無												
食 堂	有												
	無												
トイレ	有												
	無												
浴 室	有												
	無												
デイルーム（娯楽室）	有	1											1
	無	1											1
施設外	有												
	無												
その他	有					2					1		3
	無			1								1	2
小 計	有	2				2					1		5
	無	1		1								1	3
合 計		3		1		2					1	1	8

・居室の環境整備を行う事で、居室での事故は軽減傾向であるが、公用スペースでの事故が目立つ傾向にある。

８．月別外泊状況

老人保健施設、短期入所、入院含む

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	合計
H26.人数	3	1	2	1	2	1			1	2		2	15人
日　数	31	30	3	1	10	1			1	12		2	91日
H27.人数		2	1	1	2	3	2	2	5	5	4	2	29人
日　数		16	5	25	49	61	31	31	35	47	64	14	378日
H28.人数	1	2	2	3	3	2	2	1	2	2		1	21人
日　数	1	2	4	8	13	2	2	1	6	6		13	58日
H29.人数	2			1	3	1		1	3	2	3	1	17人
日　数	14			1	11	10		3	3	5	15	22	84日
H30.人数		1			1	4	2	1	4	1	2	2	18人
日　数		1			2	46	34	30	21	3	3	5	145日

９.クラブ活動

曜日	クラブ活動名	ボランティア名	平均参加人数
日	ビデオ鑑賞	職員にて	13名
月	調　理	職員にて	11名
火	生け花	職員にて	9名
	レクリエーション	職員にて	11名
水	買い物	職員にて	5～6名
	手 芸	高本博美・宮田作美	12名
木	ひまわりクラブ	西岡芳教	11名
金	音楽クラブ	一色康子(特養ホール)	3名
土	喫　茶	職員にて	10名

１０．年間行事及び交流会

月	行　　事　　名
4	お花見会・外出(双海町、大洲フラワーパーク、冨士山)・泉町れんげ祭り
5	母の日会・お神楽（幸梅園）・運動会
6	外出（内子町）・ほたる祭り・父の日会・焼肉パーティー
7	野中地区花壇植え付け・風船バレー大会・防災訓練・平沢祭り見学・外食（松山市他）
8	盆踊り大会・幸せの集い・合同慰霊祭・そうめん流し・野中地区納涼祭見学
	佐礼谷納涼祭見学
9	ぶどう狩り(添賀)・敬老会
10	運動会見学(保育所)・観月祭・期日前投票・餅つき・地方祭・入居者健康診断
	外出(久万高原町)
11	文化祭・期日前投票・外出(久万高原町)・ハーモニカの集い
12	防災訓練・忘年会・クリスマス会・餅つき、しめ縄作り
1	初詣・歳旦祭・新年会
3	風船バレー大会・避難訓練・外出（大洲市）

指定通所介護事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2.　機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（１）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（２）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3.　健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4.　レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（１）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（１）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（２）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（３）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

- 今後増加が見込まれる認知症高齢者や、重度の要介護者も受け入れ、住み慣れた地域での在宅生活が継続できるよう、関係機関との連携を密に図り、統一した個別援助の実施に努める。
- サービス提供に関して、家族や利用者個々のニーズに対し柔軟な対応ができるよう努める。
- 接遇に関する目標を定め、定期的に評価・検討を行い、利用者個々の立場に立った対応を心掛ける。また、事業所独自の勉強会や、各種研修会へ積極的に参加することにより、職員個々の知識及び技術の向上と共有を図り、利用者が安心してサービスを利用できるよう質の向上に努める。
- 日頃のコミュニケーションを通じ利用者の希望や要望を取り入れたレクリエーションや、季節に応じた外出行事、調理レクリエーションを計画的に実施し、利用者が楽しみを持ってサービスが利用できるよう努める。
- 年々進む利用者の重度化に対応するため、サービス内容について検討し、個々に合ったケアができるよう努める。
- 自立した生活が営めるように必要に応じた機能訓練を実施する。

【総合評価】

達成度（%）　78%

＜評価＞

☑ 朝礼やレクリエーションの提供を行い、他者とのコミュニケーションを図れる場

面を用意し、また、静養できる場所を準備することにより、重度の要介護者ができる限り自宅と同じ生活リズムで過ごすことができるよう、ケアマネージャーやヘルパー、医療機関と連携を図り、情報を共有することで統一した個別援助の実施に繋げた。

☑ 短時間での利用の受け入れや送迎対応など、家族や利用者のニーズに対して可能な限り柔軟な対応を行った。

☑ 年に4回接遇に関する目標を定め、定期的に評価・検討を行い、利用者個々の立場に立った対応を心掛けた。また、各種研修会への参加や、職員個々が主体となった勉強会を定期的に行うことで、知識や技術の向上と共有を図り、利用者が安心してサービスを利用できるように努めた。

☑ 朝礼やレクリエーションを通じて、利用者の要望を取り入れ、季節に合わせた外出行事や調理レクリエーションを行い、利用者が楽しみを持ってサービスを利用できるように努めた。

☑ 利用者の重度化に対応するため、定期的にカンファレンスを行い、利用者個々に応じたケアができるよう努めた。

☑ 平行棒リハビリや全体体操等の機能訓練を行うことで、下肢筋力の低下を予防し、自立した生活が営めるように支援した。

指定通所介護（介護予防）事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2.　機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（１）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（２）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3.　健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4.　レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（１）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（3）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

- 今後増加が見込まれる認知症高齢者が、住み慣れた地域で、より自立した在宅生活が維持できるよう努める。
- 接遇に関する目標を定め、定期的に評価・検討を行い、利用者個々の立場に立った対応を心掛ける。また、事業所独自の勉強会や、各種研修会へ積極的に参加することにより、職員個々の知識及び技術の向上と共有を図り、利用者が安心してサービスを利用できるよう質の向上に努める。
- 日頃のコミュニケーションを通じ利用者の希望や要望を取り入れたレクリエーションや、季節に応じた外出行事、調理レクリエーションを計画的に実施し、利用者が楽しみを持ってサービスが利用できるよう努める。
- 関係機関と連携を図り、統一した個別援助の実施に努める。

【総合評価】

達成度(%)　　79%

＜評価＞

☑ 朝礼やレクリエーションを通じて他者とのコミュニケーションが図れる場所を提供することにより社会性の維持に繋げた。また、体操・リハビリ・毎朝の健康チェックを行うことで、下肢筋力の低下予防や体力の維持及び健康管理を実施し、安心して在宅生活が送れるよう努めた。

☑ 年に4回接遇に関する目標を定め、定期的に評価・検討を行い、利用者個々の立場に立った対応を心掛けた。また、各種研修会への参加や、職員個々が主体とな

った勉強会を定期的に行うことで、知識や技術の向上と共有を図り、利用者が安心してサービスを利用できるように努めた。

☑ 朝礼やレクリエーションを通じて、利用者の要望を取り入れ、季節に合わせた外出行事や調理レクリエーションを行い、利用者が楽しみを持ってサービスを利用できるように努めた。

☑ ケアマネージャーや主治医・ヘルパー等、関連機関と連携を図りながら、統一した個別援助に努めた。

平成30年度

指定通所介護事業所 なかやま幸梅園

1. 事業内容

区分: 通所介護〔併設型〕利用定員 30名
体制: 入浴介助体制〔あり〕

2. 開所日数

: 312 日

3. 利用実績

（単位:人）

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
登 録 人 数		86	81	80	79	82	81	85	84	84	85	80	80	987
実 利 用 人 数		76	72	74	74	76	77	78	77	74	70	68	72	888
介護度別利用者数	要支援1･2	110	123	102	106	125	109	126	141	139	127	129	149	1,486
	要介護1	293	280	303	304	308	296	360	317	301	288	274	287	3,611
	要介護2	132	152	138	141	147	135	144	127	104	96	92	86	1,494
	要介護3	75	80	83	90	73	62	49	48	54	44	37	48	743
	要介護4	35	30	32	28	24	23	38	33	30	29	37	44	383
	要介護5					10	5	8	6	5	6	11	12	63
	合 計	645	665	658	669	687	630	725	672	633	590	580	626	7,780
1 日 平 均		25.8	24.6	25.3	25.7	25.4	25.2	26.8	25.8	24.3	21.8	22.5	24.1	297.3
月～土曜日平均		25.8	24.6	25.3	25.7	25.4	25.2	26.8	25.8	24.3	21.8	22.5	24.1	297.3
開所日数		25	27	26	26	27	25	27	26	26	27	24	26	312
延べ入浴者数		516	563	543	523	550	504	555	505	504	457	448	491	6,159
平均入浴者数		20.6	20.8	20.8	20.1	20.3	20.1	20.5	19.4	19.3	16.9	18.6	18.9	236.3

4. 要介護度別利用者状況

介護度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要支援	20	19	18	19	21	21	22	25	25	26	24	27	267
要介護1	27	25	29	28	30	31	32	29	28	26	23	25	333
要介護2	13	15	12	13	12	13	13	13	11	8	10	9	142
要介護3	11	9	11	10	9	7	6	6	6	6	6	6	93
要介護4	5	4	4	4	3	4	4	3	3	3	4	4	45
要介護5					1	1	1	1	1	1	1	1	8
合 計	76	72	74	74	76	77	78	77	74	70	68	72	888

５．介護度別利用者年齢構成

平成31年3月31日現在

介護度	要支援		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計
性別 / 年齢階層	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
64歳以下													
65歳～69歳							1						
70歳～79歳	1	1	2	3	1								
80歳～89歳	4	13	5	5		6	2	2	1				
90歳以上	4	7	2	8		5	2	1	1	2		1	
総計	30		25		12		8		4		1		80

６．年間利用状況推移

年度 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26年度	683	683	654	659	585	607	643	582	526	508	523	547	7,200
平成27年度	512	546	537	542	521	499	570	551	591	476	552	585	6,482
平成28年度	587	604	618	674	685	631	648	623	641	623	598	655	7,587
平成29年度	670	713	666	645	669	719	710	680	643	571	548	679	7,913
平成30年度	645	665	658	669	687	630	725	672	633	590	580	626	7,780

７．事故発生の状況

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	受診	対応・処置内容等
1	4月7日	男	転倒	脱衣場	着衣時に下ズボンを上げようとして転倒	有	患部圧迫止血してガーゼ保護
2	5月18日	女	転倒	玄関ホール	靴を履きかえる時に座った状態で前方に転倒	有	BD測定後受診
3	7月28日	女	誤嚥	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	気になる事があり、集中せずに食事をし、「何か詰まった」と訴えあり嘔吐	有	ビタミン注射　問診　固形物中止の指示
4	7月7日	女	転倒	浴室内トイレ	トイレ誘導後、大きな音がしたため確認すると転倒	有	BD測定後CT検査様子観察

ヒヤリハット件数　18件

事故発生状況　　2018　　通所介護事業所 なかやま幸梅園

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有												
	無												
居　室	有												
	無												
食　堂	有					1							1
	無	1										2	3
トイレ	有												
	無												
浴　室	有	1											1
	無											4	4
デイルーム（娯楽室）	有												
	無	1		2	1							2	6
施設外	有												
	無	1											1
その他	有	2											2
	無	2											2
小　計	有	3				1							4
	無	5		2	1							8	16
合　計		8		2	1	1						8	20

前年度の17件から20件と微増。デイルーム以外でも浴室・食堂での事故も多く発生する。
同種の事故が再発するケースがあったため、再発防止対策の見直しをする必要がある。
又、発生内容としては転倒事故が多く、環境面や利用者個々の能力を把握し継続して機能訓練をすることで、下肢筋力の低下を予防し、事故の減少に繋げる必要がある。

８．苦情発生の状況

該当なし

指定居宅介護支援事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

自宅において、その有する能力に応じた自立生活が営めるよう、利用者、家族と一緒に考え、個々の解決すべき課題、その心身の状況や置かれている環境等に応じて保健・医療・福祉にわたるサービスが、総合的かつ効率的に提供できるよう支援する。

【具体的取り組み】

1.　介護保険最新情報の把握・家族への説明

介護保険制度改正の対応を適切に行い、利用者・家族が安心してサービスを利用できるよう情報提供を行うと共に、サービス関係機関との連携を密に行う。

2.　居宅サービス計画の充実

利用者の心身の状態や環境、生活歴を把握すると共に、課題等を分析し、本人の力を引き出せるようなサービスを利用者・家族・サービス担当者等を含めて検討することで、その人らしい生活ができるようにケアプランを作成する。

安全で安楽に過ごせるように、自宅での生活動線を把握し、環境を整える。

3.　サービスの評価

毎月の訪問時に、利用者の心身状態及び生活状況を把握すると共に、サービス事業者の意見を参考に、計画が適切であるかを確認しながら援助目標の達成度を毎月評価し、計画見直しが必要な場合には担当者会議へ繋げる。

4.　医療と介護の連携

医療と介護の継ぎ目のないサービスを効果的に利用できるようにする観点から、入院時や退院・退所時に病院等と連絡を取り合い医療機関等の開催するカンファレンス等に参加し、利用者に関する情報共有を行う。

ターミナル期には主治医などの助言を得つつ、通常よりも頻回に訪問し、利用者の心身の状態変化やサービス変更の必要性を把握、記録し主治医やサービス事業所に情報提供を行う。

5.　認知症高齢者・独居高齢者等の支援及び地域貢献

認知症や独居になっても住み慣れた地域での生活が継続できるように、地域との繋がりを保つケアマネジメントを実施し、在宅介護支援センターと協力しながら地域貢献を行う。また、緊急時の対応がスムーズに行えるよう、連絡先の再確認や、

緊急災害時連絡一覧の更新を行う。

6.　地域包括支援センターとの連携

常に地域包括支援センターと連携を図り、困難ケースを積極的に受け入れ、必要時には、包括支援センターが開催する地域ケア会議に参加する。

30 年度より伊予市地域包括支援センターの業務が伊予市から民間に委託されるため、サービスの導入や支援に支障が出ないよう連携を密にとる。

7.　障がい福祉の相談支援専門員との連携

障がい福祉サービスを利用してきた人が、介護保険を利用する場合に適切なケアプランが作成できるように、障がい福祉制度の相談支援専門員との連携に努める。

8.　資質向上

利用者に関する情報又はサービス提供に当たっての留意事項に係る伝達等を目的とした居宅会議を週１回実施する

介護支援専門員全員が、具体的な研修目標、内容を個別に作成し、必要な研修には積極的に参加し、評価を行う。

伊予市内の他の居宅介護支援事業所と共同で事例検討会や研修会などを行い、地域包括支援センターが実施する事例検討会等にも参加する。

【総合評価】

達成度(%)　　８０％

＜評価＞

☑ 利用者、家族、サービス事業者から情報収集し、利用者・家族の意向を踏まえたケアプランを作成し、必要に応じて住宅改修や福祉用具購入、レンタル等、生活しやすいように環境整備を行った。

☑ 状況が変わった時には、ケアプランの見直しを行い、また必要時には区分変更申請も行った。

☑ 入院時の病院への情報提供や退院前のカンファレンスへの参加等、積極的に行った。しかし、連絡なしでの退院もあり、全てを実施することはできなかった。

☑ 困難ケースを受け入れ、地域ケア会議への参加も行った。

☑ 緊急災害時連絡一覧の更新が遅れた。

☑ 週１回の居宅会議、他法人の居宅との事例検討会、伊予市ケアマネ連絡会等への参加の他、各種研修会にも積極的に参加し、知識の向上に繋がった。

1　サービス計画数

（要支援1・要支援2は伊予市包括支援センターからの委託を受けて実施）　（単位：人）

介護度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
要介護1	60	59	63	60	60	61	63	57	58	52	52	59	704
要介護2	32	34	32	35	34	37	39	41	38	32	33	34	421
要介護3	23	23	21	20	17	16	16	16	14	12	9	11	198
要介護4	18	14	14	14	14	16	19	17	15	20	20	19	200
要介護5	4	4	4	5	6	7	6	4	3	2	3	2	50
要介護　計	137	134	134	134	131	137	143	135	128	118	117	125	1,573
要支援1・2	39	38	38	40	42	41	40	42	44	44	41	44	493
介護+支援の数	176	172	172	174	173	178	183	177	172	162	158	169	2,066
介護+支援1/2の数	156.5	153	153	154	152	157.5	163	156.5	150	140	137.5	147	1,820
事業対象者	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24

＜サービス計画数　5年間の動き＞　（要支援は二人で一人として計算・ケアマネ1人35人上限）
（事業対象者は持ち人数へのカウントなし）

	26年	27年	28年	29年	30年
計画数	1,690 (1,738)	1,586 (1,657)	1,817 (2,056)	1,810 (1,997)+21	1,820 (2,066)+24
要介護数	1,642	1,515	1,578	1,623	1,573
要支援数	96	142	478	374	493
ケアマネ数	4.2	4.7	4.8	5	5
1人の持ち人数	33.5 (34.5)	28.1 (29.3)	31.5 (35.7)	30.2 (33.3)	30.3 (34.4)
(事業対象者入り)				33.6	34.8

2　契約開始と契約終了の状況　（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護、新規契約		8	3	7	2	5	4	5	4	3	3	4	1	49
予防、新規委託		6	1	4	4	3	1	2	4	0	2	2	2	31
契約終了	永眠		2	1	1		1	1	2	1	1	1	1	12
	施設入所	1	3	1	1	2	1		1	2	1	2	4	19
	その他			1										1

3　加算対応件数　（単位：人）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防初回加算	6	1	3	2	2	2	1	5	2	2	1	4	31
介護初回加算	4	3	10	5	3	6	6	3	5	6	7	4	62
入院連携加算	2	2	0	2	1	2	4	2	2	3	2	5	27
退院退所加算	6	1	1	2	1	4	2	1	0	0	0	6	24
合計	18	7	14	11	7	14	13	11	9	11	10	19	144

4　介護保険代行申請数

（単位：人）

種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	1	1	2	0	1	3	3	1	3	1	1	5	22
介護保険更新	5	2	12	9	5	7	5	7	6	8	2	5	73
介護予防更新	2	4	2	0	5	0	1	0	0	2	2	2	20
区分変更	3	0	3	3	2	2	0	4	4	2	3	3	29
合計	11	7	19	12	13	12	9	12	13	13	8	15	144

5　事業所への提供依頼状況

（単位：人）

サービス種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
訪問介護	49	48	47	45	44	49	51	45	49	44	46	48	47.1
訪問看護	23	21	24	23	21	22	23	23	21	21	21	22	22.1
通所介護	56	55	56	55	55	56	57	53	52	46	45	47	52.8
通所リハビリ	2	2	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1.4
地域密着通所介護	63	63	60	61	61	65	71	60	58	51	55	57	60.4
短期入所生活介護	52	56	48	52	50	53	52	52	49	35	38	41	48.2
短期入所　老健	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.2
福祉用具貸与	72	71	69	71	68	72	75	71	66	62	59	62	68.2
介護予防訪問介護	11	11	11	11	13	10	12	13	13	12	11	13	11.8
介護予防訪問看護	7	7	5	5	6	5	5	2	4	4	4	4	4.8
介護予防通所介護	23	22	22	23	25	26	28	31	31	32	28	32	26.9
介護予防通所リハビリ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0.3
予防短期入所生活介護	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0.7
介護予防福祉用具貸与	18	16	15	16	16	15	15	14	14	16	15	15	15.4
総合事業　がんばる会	4	4	4	4	2	3	3	3	3	3	3	3	3.3
合　計	382	377	363	368	363	379	395	369	363	328	328	346	363.4

6　サービス担当者会議開催数

（単位：回）

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開催回数	49	34	44	37	29	30	32	33	38	31	24	33	414

7　主治医への照会依頼

（医療系サービスや軽度者の福祉用具レンタル利用に関する意見の照会）

（単位：件）

提出月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
町内の主治医	1	3	7	3	1	2	0	4	4	4	1	1	31
町外の主治医	2	0	0	2	0	0	0	2	0	1	0	0	7

８　福祉用具購入費の支給申請

No.	申請月	対象者		福祉用具名
1	4	介護2	男	ポータブルトイレ
2	4	介護3	女	ポータブルトイレ
3	4	介護1	女	ポータブルトイレシャワー椅子
4	4	介護1	女	バスグリップ
5	4	介護4	女	ポータブルトイレ
6	7	介護4	女	ポータブルトイレ
7	8	介護1	女	浴槽台
8	8	介護2	女	浴槽台
9	8	支援2	女	浴槽台
10	9	介護5	男	ポータブルトイレ
11	10	介護3	男	シャワー椅子
12	10	介護3	男	ポータブルトイレ
13	10	支援1	女	シャワー椅子・浴槽台
14	12	介護2	女	バスボード
15	2	介護2	男	バスボード・バスボード
16	2	介護2	女	ポータブルトイレ
17	3	支援1	女	浴槽台

＜福祉用具購入 5年間の動き＞

年度	26年	27年	28年	29年	30年
件数	18	14	6	14	17

９　住宅改修費の支給申請

No.	申請月	対象者		改修内容
1	4	介護1	女	手すり（トイレ・浴室・廊下）
2	4	支援1	女	手すり（屋外・室内・玄関）
3	4	支援2	男	手すり（トイレ・浴室・玄関）
4	4	介護1	女	手すり（廊下・浴室）
5	4	介護2	女	手すり（屋外）
6	6	介護1	男	手すり（玄関）
7	7	介護2	女	手すり（トイレ・浴室）
8	7	介護2	女	手すり（トイレ・浴室・廊下）
9	8	介護1	女	手すり（廊下・勝手口）
10	8	支援2	女	手すり・段差解消（廊下・台所）
11	8	介護1	女	段差解消（玄関）
12	10	介護3	男	手すり（浴室）
13	10	支援1	女	手すり（屋外・浴室・トイレ）
14	10	介護2	女	手すり（玄関・廊下・トイレ・浴室）
15	10	介護1	男	スロープ
16	12	介護1	男	手すり（廊下・階段）
17	2	介護2	女	手すり（廊下）・スロープ

＜住宅改修 5年間の動き＞

年度	26年	27年	28年	29年	30年
件数	15	22	12	19	17

１０　居宅会議開催数

（単位：回）

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開催回数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5	59

１１　研修会等への参加

研修日	内容	参加人数	場所	研修日	内容	参加人数	場所
4/21	県ケアマネ協会総会	1	松山市	12/13	ケアマネ連絡会	5	伊予市
7/1	傾聴ボランティア養成講座	2	伊予市	12/13	他法人との合同事例検討会	5	伊予市
7/24	ケアマネ連絡会	5	伊予市	12/15	最期はどこがいいですか	2	松山市
7/24	他法人との合同事例検討会	5	伊予市	12/19	認知症セミナー・食で認知症予防	1	伊予市
7/30	地域でのつながり支え合い体制づくりセミナー	1	松山市	1/19	認知症の治療とリビングウイル	1	松山市
8/18	成年後見人制度について	1	松山市	1/26	薬の基礎知識・副作用に留意	1	松山市
9/14	介護予防とは、本当に必要な事は何か	1	砥部町	2/15	ケアマネ連絡会・ケアマネの被災地支援	5	伊予市
7/27	ノーリフトケア	3	伊予市	2/19	地域リーダー養成研修	1	松山市
10/11	前向きに老いを考えるためのヒント	2	砥部町	3/12	他法人との合同事例検討会	4	伊予市
11/13	地域リーダー養成研修	1	砥部町	3/25	ゲートキーパー応用編・自殺予防	1	伊予市

１２　その他代行申請

社会福祉協議会オムツ申請（寝たきりか重度認知症で尿便意のない人）　⇒　新規申請数　1件

在宅介護支援センター　なかやま幸梅園

【基本方針】

中山町の高齢者やその家族に対し、介護や医療などの相談支援を行い、必要に応じて保健・医療・福祉サービスが円滑に受けられるよう関係機関と連携し、在宅での生活が継続できるよう支援を行う。また、介護予防等の啓発事業など地域貢献も行う。

【具体的取り組み】

1.　地域ケア会議

保健・医療・福祉・行政関係者が集まり、中山町における要援護者の抱える問題解決に向けた情報交換等を行う場として月に一度開催する。地域包括ケアシステムの構築に向けて行政・関係機関と連携を取りながら検討する。

2.　一般介護予防

介護予防の基本的な知識を普及啓発するため、各種教室や相談などの実施、サロン等の地域における自主的な介護予防活動を支援する。また、地域の課題解決に向けてコミュニティ強化等の取り組みを検討する。

3.　家族介護教室

家族や地域住民などへ介護に関する知識や技術の習得を目的とした勉強会や研修旅行などを開催する。また、家族や要介護者の気分転換や親睦、専門職や地域住民との情報交換、交流の場として、誰でも参加できるカフェの開催に向けて取り組む。

4.　認知症相談

中山町の住民に対して、愛媛大学医学部付属病院の専門医が認知症に関する相談、診察などを行い早期発見・治療に繋げる。また、地域住民や福祉関係者を対象に認知症への理解に向けた啓発活動を行う。

中山町健康調査については、28 年度から行われている第５回調査の結果報告が円滑に進むよう地域住民や関係機関と連携を図ると共に、対象者のフォローアップを行う。特に軽度認知機能障害の対象者には、定期的な予防教室の開催を検討する。

5.　高齢者配食サービス事業

独居や高齢者夫婦、日中独居状態の高齢者を対象に安否確認と栄養確保を目的とした配食サービスを実施し、訪問時の急変に対しては迅速な対応を行う。また、配食サービスの認知度向上に取り組む。

6. 施設の委託管理

（1）伊予市高齢者共同住居

入居者の生活支援と安全の確保に取り組む。

1．昼食作りや建物の清掃、生活相談などの援助を行う。

2．交通の不便さを緩和するための定期バスを週一回運行し、社会生活から孤立しないよう支援する。

3．要介護や支援状態になっても、介護保険サービスを利用しながら、可能な限り共同住居での生活が続けられるように支援する。

（2）中山老人憩の家

中山地域の高齢者または要援護高齢者の集会や憩いの場として施設を提供し高齢者間の交流を促進する。また、今後の中山老人憩の家の動向については情報収集を行う。

7. 中山老人憩の家自主事業「がんばる会」

中山老人憩の家において、高齢者の外出する機会を作り、レクリエーション活動などを通して交流や趣味を見つけ、閉じこもりなど社会的孤立や心身機能低下などの予防・啓発に努める。また、昨年度から実施している介護予防・生活支援サービス事業の基準緩和型サービスは引き続きがんばる会の並行実施を模索していく。

8. 地域包括ケア相談窓口設置事業

伊予市地域包括支援センターの窓口機関（ブランチ）設置委託を受け、中山町において支援を必要とする高齢者及び家族などの相談に応じながら、個々または地域の課題発見並びに解決を図る。また、必要に応じて関係機関と連絡調整を行い、適切なサービスに結び付けるなど要支援・要介護状態にならないよう継続的な支援を行う。今年度より伊予市地域包括支援センターの業務が伊予市から民間に委託されるため、サービスの導入や支援に支障が出ないよう連携を密にとっていく。

【総合評価】

達成度(%)　　７５％

＜評価＞

☑ 地域ケア会議：毎月開催し、関係機関との情報交換・共有を図ることができた。また、必要に応じて支援に繋げることができた。

☑ 一般介護予防：転倒予防や認知症予防、定期的な介護予防教室をサロンや改善センターなどで事業としては上限である 24 回行った。また、協議体へ参加し地域課題の確認やコミュニティ強化へ向けた検討を行った。

- ☑ 家族介護教室：介護に関する知識の普及を目的とした勉強会を上限である 12 回行った。また、併せて誰でも参加できるあったカフェを開催し、家族や福祉関係者だけでなく地域住民への普及啓発も行った。
- ☑ 認知症相談：専門医による診察や相談を毎月 2 回行い、認知症の早期発見や治療、必要に応じてサービス利用の助言等の支援を行った。また、第 5 回中山町調査の結果報告を 10 月から別に行い、相談件数は 211 件であった。
- ☑ 高齢者配食サービス事業：安否確認と栄養確保を目的に配食を行い、年間延べ 1,780 食、1 日平均 4.8 食であった。
- ☑ 施設の委託管理：共同住居入居者へ 12 月に行政との説明会を設け、関係機関と連携を取りながら転居に向けての支援を行っている。
- ☑ がんばる会：中山町の高齢者を対象に、閉じこもり予防や趣味作りなどを目的とした自主事業のがんばる会と、介護予防・生活支援サービス事業の基準緩和型とを並行実施した。がんばる会は年間延べ 2,195 名が利用し、1 日平均 9.3 名となっている。基準緩和型は年間延べ 192 名が利用した。
- ☑ 日常生活において、緊急性または継続的な関わりが必要な高齢者に対し実態把握を行い、必要なサービス等の提供に繋げた。相談件数は 473 件、緊急性または継続的な関わりが必要なものは 52 件であった。

１．地域ケア会議実績

目　的　　保健・医療・福祉・行政関係者が集まり、中山町における要援護者の抱える問題解決に向けた情報交換等を行う場として月に一度開催する。

開催日　　毎月第1木曜日　13時30分から

開催場所　　なかやま幸梅園 会議室等

出席者　　保健・医療・福祉などの現場職員を中心に15名程度

医師・訪問看護師、歯科医師・歯科衛生士、保健センター職員・保健師、社協専門員・居宅介護支援事業所、各居宅サービス事業所、施設相談員、在宅介護支援センター

実施回数　　年間12回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別参加者数	19	16	14	13	16	13	15	12	15	14	17	17	162

２．　一般介護予防

目　的　　介護予防の基本的な知識を普及啓発するため、各種教室や相談などの実施、サロン等の地域における自主的な介護予防活動を支援する。

内　容　　転倒骨折予防、認知症予防、介護予防教室

対象者:　　65歳以上の高齢者及びその支援のための活動に関わる者

講　師:　　歌体操: 田村　妃三子（NPO法人全日本健康音楽研究会　松山支部代表）

訪問看護ステーションくるみ　杉 直征　理学療法士

平成30年度　転倒骨折予防

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数		1	4						1	3	1	2	12
参加人数		25	44						24	35	18	21	167

平成29年度

実施回数		1		2	1		1	1	1				7
参加人数		21		21	13		15	11	21				102

平成30年度　認知症予防

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数				3	1	1			3	2	1	1	12

平成29年度

実施回数		1		1			1	1					4

３．家族介護教室事業実績

目　　的　：　高齢者を介護している家族及びボランティア等に対し、介護方法や介護予防及び介護者の健康作り等についての知識及び技術を習得させるための教室を開催することにより、高齢者を介護している家族等の身体的・精神的負担の軽減を図ると共に在宅福祉の向上及び介護予防に資することを目的とする。

協力機関　：　保健センター・社会福祉協議会　居宅介護支援事業所　介護保険対象事業所

開催場所　：　総合福祉施設なかやま幸梅園等

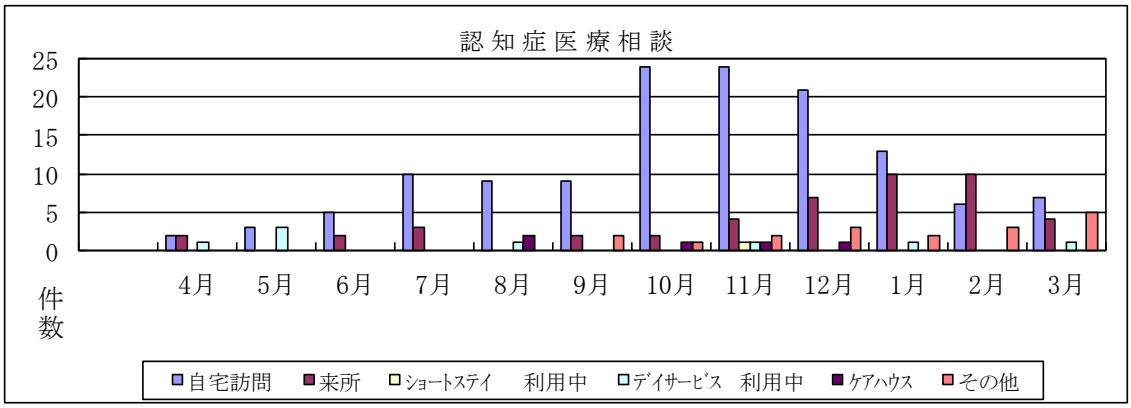
月	日	曜日	時間	場所	内容	講師	参加人数
4	19	水	10:00～ 12:00	なかやま幸梅園 会議室	平成30年度　活動計画の検討と福祉の動向について		9
5	12	火	13:30～ 15:00	くりのみ	口腔機能の維持 誤嚥予防について	中山歯科診療所　高橋Dr	13
6	14	木	10:00～ 12:00	上野方面	施設見学 老人保健施設　伊予ヶ丘	相談員 高橋	5
7	14	土	13:30～ 15:00	くりのみ	脱水予防・熱中症予防	大塚製薬　益田	17
8	11	土	13:30～ 15:00	くりのみ	ノーリフト　抱えない介護	社会福祉協議会 北風	14
9	8	土	13:30～ 15:00	くりのみ	土に触れてストレス解消 陶芸教室	陶房Kibi 梶原	15
10	12	金	9:00～ 15:00	別子方面	外出　マイントピア別子 車内勉強会　感染症		6
11	10	土	13:30～ 15:00	くりのみ	栄養や食べやすい食事について	管理栄養士 小川	16
12	8	土	13:30～ 15:00	くりのみ	排泄用品について	紙商事 担当　井原	13
1	12	土	13:30～ 15:00	くりのみ	認知症について 愛媛大学医学部付属病院	精神科 吉田Dr	17
2	9	土	13:30～ 15:00	くりのみ	健康維持のための運動について	理学療法士 杉	18
3	9	土	10:00～ 12:00	くりのみ	介護うつ、ストレス対策 愛媛大学医学部付属病院	精神科 越智Dr	17

４．認知症相談

目　的:　　認知症高齢者を抱える家族に対し、愛大精神科専門医による総合相談の実施。

実施日:　　月2回程度

月別／区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自宅訪問	2	3	5	10	9	9	24	24	21	13	6	7	133
来所	2		2	3		2	2	4	7	10	10	4	46
ｼｮｰﾄｽﾃｲ利用中								1					1
ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ利用中	1	3			1			1		1		1	8
ケアハウス					2		1	1	1				5
その他						2	1	2	3	2	3	5	18
合計	5	6	7	13	12	13	28	33	32	26	19	17	211



５．高齢者配食サービス事業

目　的　　訪問による定期的な食事の提供に併せて、高齢者の安否確認を行うことで、当該高齢者等の社会的孤立感を解消し、及び自立支援を図る。

対象者　　①65歳の一人暮らしの者で、身体虚弱等のため、調理し食事することが困難である。
②65歳以上の者のみで構成する世帯の世帯主又は世帯員で、当該世帯主又は世帯員のいずれも身体虚弱等のため、調理し食事することが困難である。
③その他の理由（上記に類する具体的な理由がある）

・延べ利用数　　139名

・延べ配食数　　1,780食

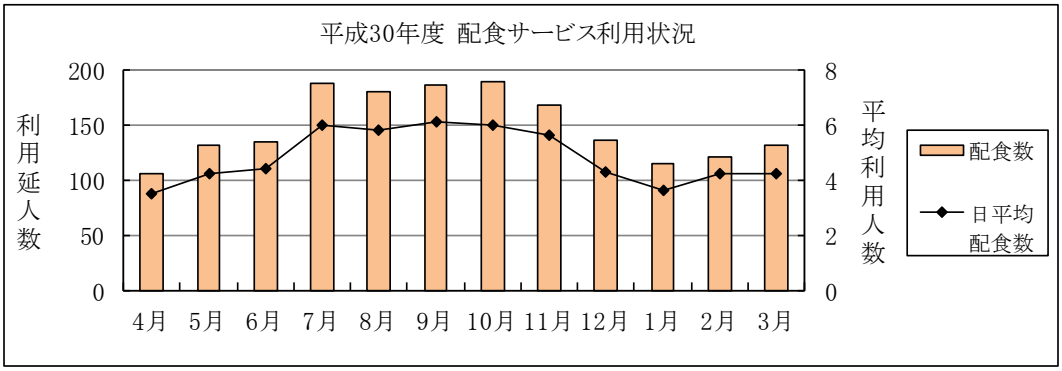
【月別利用人数及び配食数】

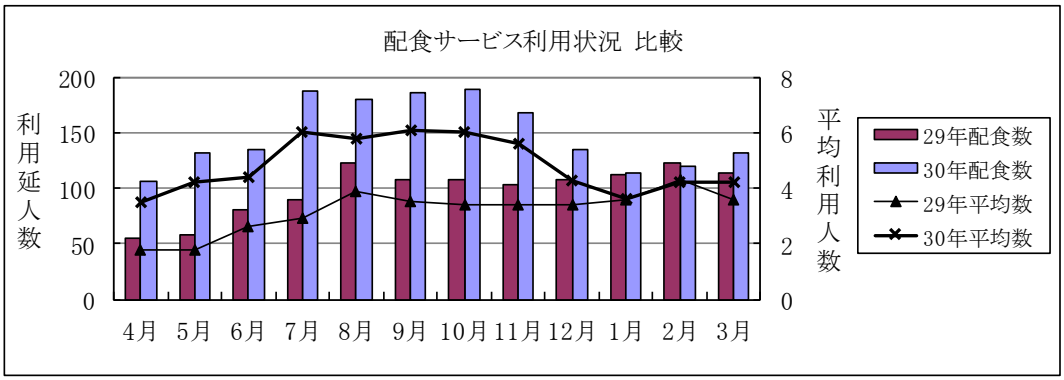
平成30年度

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配食数	106	131	134	187	180	185	189	168	135	114	120	131	1,780
利用人数	10	11	13	14	13	14	13	12	11	9	9	10	139
日平均配食数	3.5	4.2	4.4	6	5.8	6.1	6	5.6	4.3	3.6	4.2	4.2	4.8

平成29年度

配食数	55	58	80	90	123	107	107	103	107	112	123	113	1,178
利用人数	5	6	8	9	10	9	7	6	8	8	10	10	96
日平均配食数	1.8	1.8	2.6	2.9	3.9	3.5	3.4	3.4	3.4	3.6	4.3	3.6	3.2





６．施設の委託管理
伊予市高齢者共同住居

目　的　　独り暮らしや、高齢者世帯で買い物や生活に不安を感じている方の生活を共同化することにより、高齢者の生活の質を高め健康増進を図り、介護予防を目的とする。

開設年月日　平成12年2月1日

入居定員　　8名

居　室	性 別	入退居状況	日　付	備 考
ふ　　じ				
つ　ば　き				
き　き　ょ　う				
の　ぎ　く	女　　性	入　　居	平成18年10月23日	
な　の　は　な	男　　性	退　　居	平成31年3月1日	町内の空き家へ転居
り　ん　ど　う	女　　性	入　　居	平成25年11月15日	
わ　か　た　け				
す　み　れ	女　　性	入　　居	平成18年3月11日	

・ヘルパー事業
　週5日（月～金）ヘルパーが来て、入居者とともに昼食作りを行う。
・買い物
　交通の不便さを解消するため、毎週金曜日の午前中にバスを運行し、買い物等に利用する。

中山老人憩いの家

７．中山老人憩いの家自主事業「がんばる会」

目　的　家で閉じこもりがちな、概ね60歳以上の高齢者の心身のリフレッシュ、生きがい作り及び自立生活の支援や社会的交流を図ることで、要支援・要介護状態にならないように予防する。 認知症予防、介護予防を目的とした教室を行う。

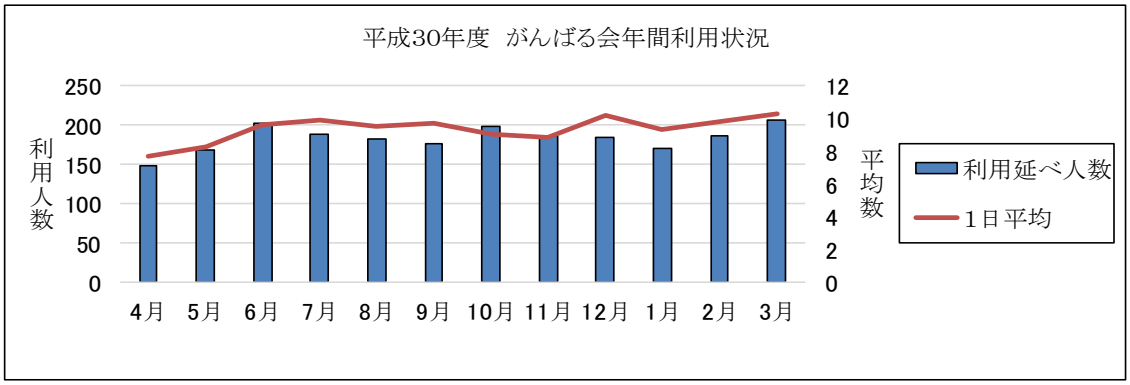
対象者　概ね60歳以上の高齢者

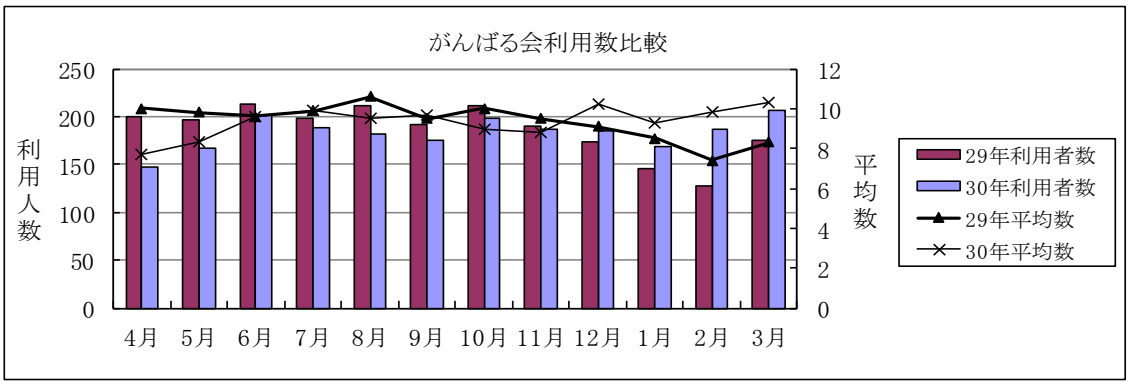
平成30年

月　別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開設日	19	20	21	19	19	18	22	21	18	18	19	20	234
利用延べ人数	148	167	202	189	182	175	199	186	185	169	187	206	2,195
1日平均	7.7	8.3	9.6	9.9	9.5	9.7	9	8.8	10.2	9.3	9.8	10.3	9.3

平成29年

開設日	20	20	22	20	20	20	21	20	19	17	17	21	237
利用延べ人数	200	197	213	199	212	191	212	190	174	145	127	175	2,235
1日平均	10	9.8	9.6	9.9	10.6	9.5	10	9.5	9.1	8.5	7.4	8.3	9.4





介護予防・生活支援サービス事業

目　的　要介護（要支援）状態になることを予防し、要介護状態になった場合でも可能な限り自立した日常生活を過ごせるよう支援すること目指す。

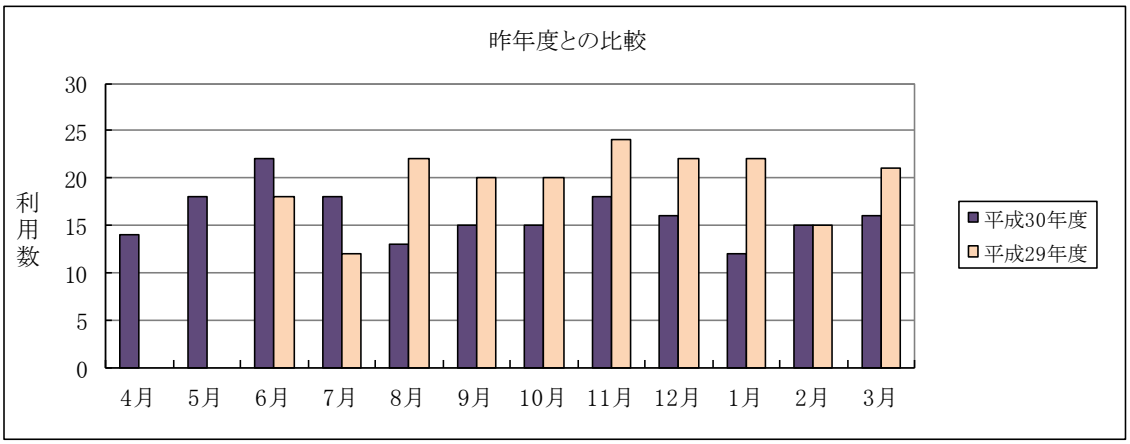
内　容　身体介護を伴わない日常生活上の支援や運動、レクリエーションの提供。

平成30年度

項目＼月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所型サービスA	14	18	22	18	13	15	15	18	16	12	15	16	192

平成29年度

項目＼月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所型サービスA			18	12	22	20	20	24	22	22	15	21	196



8. 地域包括ケア相談窓口設置事業

平成30年度

月別 相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	42	31	20	25	31	25	40	42	39	34	31	30	390
保健福祉 サービス	2	2	6	2			2	2	5	2	4		27
権利擁護													0
虐待													0
その他	14	3		4	10	4	6	4	6	5			56
合計	58	36	26	31	41	29	48	48	50	41	35	30	473

平成29年度

月別 相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	13	21	27	40	19	26	15	12	18	17	14	17	239
保健福祉 サービス	4	6	11	3	6	4	9	4	3	5		5	60
権利擁護							4						4
虐待													0
その他	2	4	6	3	6	1			2	11		4	39
合計	19	31	44	46	31	31	28	16	23	33	14	26	342

高齢者アセスメントシート作成件数

平成30年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
認知症	3	2	2	3		3	3	2	5	3	3	4	33
見守り	2	2		4	3	1	1	3		1	1		
移動手段 の確保			1										
交流促進													
買物支援													0
合計	5	4	3	7	3	4	4	5	5	4	4	4	52

平成29年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
認知症	2	2	2	2		2		2	4	1	1	2	20
見守り	4		6	2	4		4	2	1	3	2	3	
移動手段 の確保								1					
交流促進													
買物支援													0
合計	6	2	8	4	4	2	4	5	5	4	3	5	52

指定通所介護事業所　佐礼谷

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2.　機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（１）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（２）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3.　健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4.　レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（１）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

地域の一員である自覚を持ち、理解と信頼が得られるように努めると共に、地域福祉の拠点として開かれた施設を目指す。

（１）地域や学校行事に参加し、交流を図る。

（２）施設の見学や地域に出向いての説明会等を実施することにより、地域の理解と信頼を得られるように努める。

（３）各関係機関と連携しながら地域のニーズを把握し、必要時には相談やサービスに繋げる。

（４）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

- 地域の要望と法人の方針に基づき、地域に密着した事業所を目指すと共に、必要時には迅速に対応する。
- デイサービスのみの運営へ移行することに伴い、移行前後の利用者の状態把握に努めると共に、家族との情報共有を密にし、安心してサービスが利用できるよう支援する。
- 職員の配置や勤務シフト、業務内容が変更されるため、運営が円滑に行えるよう、小まめに報告、連絡、相談を行う。また、ＰＤＣＡサイクルを繰り返すことにより、効率的な業務を目指す。
- 施設を日中のみ使用することから、出勤及び退出時には、火元確認等の火災予防対策、施錠等の防犯対策を確実に行い、安全に使用する。
- 新施設の建設については、関係機関と連携しながら準備する。移転時には、運営への支障が最小限になるよう、関係機関の協力を得ながら計画的に行う。また、環境の変化に伴う利用者の不安、負担の軽減に努めると共に、新施設での運営がスムーズに行えるよう協力し合い、研修、相談等を行う。
- 在宅生活を継続するため、各利用者のニーズや問題点、困り事等について適切にアセスメントを行い、家族及び各関連機関と連携しながら解決方法を検討、実施する。
- 地域の理解、信頼を得て利用者の増加を目指すために、施設を開放し、見学会やサービスの説明会、住民との交流会等を行うと共に、お試し利用等によりサービスに繋げる。

- 地域住民・利用者家族・行政が参加する運営推進会議を定期的に開催し、提供しているサービス内容等の説明や意見交換等を実施することにより、サービスの質の向上を図る。
- 医療依存度の高い利用者も安心して利用できるよう、医療機関及び他関連機関と連携し、適切なサービスの提供に努める。
- 少人数ケアにより、利用者個々に配慮し、きめ細かいケアを実施することで、利用者の自立支援を促進し、重度化防止を図る。また、新施設においては、間仕切りなど室内環境の利点を活かし、利用者の特性に応じたケアを柔軟に行う。
- 自然災害に備え、日頃より防災知識を深め利用者にも周知する。また、新しい情報を得ると共に、地域との連携を密にする。緊急時には、情報収集、周囲の観察等を行い、地域防災組織等と連携を図りながら利用者、職員の安全を確保する。

【総合評価】

達成度(%)　85%

＜評価＞

☑ ケアマネージャーとの連携により、訪問やアセスメントを行うことで、利用変更や新規利用希望者に対しても迅速に対応できた。

☑ 担当者会議や、日々の送迎時等において、自宅での様子を伺いながらサービス提供を行った。デイサービスのみの運営となったが、法人全体との連携により大きな混乱は見られなかった。

☑ 業務内容を日勤帯のみに変更し、一部の業務において担当職員を設定することでスムーズな動きが可能となった。

☑ 出勤時・退出時の確認マニュアルを作成し、安全に施設を使用した。特に火の元や熱源となる物に対しては、数名の職員で確認を行い事故も起きなかった。

☑ 計画的な引っ越しを行うため、年間スケジュールを設定し、他部署との協力を得ながら片付や備品の移動を行った。最終的な引っ越しでは、休業せず、利用者への影響も少なかった。

☑ 介護相談員の受け入れを行い、利用者からのニーズや困りごとの把握に役立てた。

☑ 施設を開放しての説明会は行えなかったが、職員が住民自治の総会に参加し、地域住民との交流やサービスの説明等を行った。お試し利用の希望はなかったが、施設見学を行うことで新規利用に繋がった。

☑ 運営推進会議を年２回実施し、利用者や地域住民からの意見を取り入れることができた。また、新しい事業所についての説明や、内覧会を実施することで、事業所に対する理解を得られた。

☑ 地域の医療機関と連携し、体調不良者への対応を適切に行えた。また、服薬や医

療面についての相談を行うことで、安心して在宅生活が継続できるよう努めた。

☑ 月ごとに行事予定表を作成し、複数の職員で体操やレクリエーションの提供が行えるよう、体制を整えた。

☑ 年に２回の火災避難訓練及び風水害の避難訓練を実施した。また、地域の防災訓練にも参加し、災害時には施設職員及び、地域住民と連携が図れるよう確認し合った。

指定通所介護（介護予防）事業所　佐礼谷

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2.　機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（１）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（２）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3.　健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4.　レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（１）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

地域の一員である自覚を持ち、理解と信頼が得られるように努めると共に、地域福祉の拠点として開かれた施設を目指す。

（１）地域や学校行事に参加し、交流を図る。

（２）施設の見学や地域に出向いての説明会等を実施することにより、地域の理解と信頼を得られるように努める。

（３）各関係機関と連携しながら地域のニーズを把握し、必要時には相談やサービスに繋げる。

（４）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

- 地域の要望と法人の方針に基づき、地域に密着した事業所を目指すと共に、必要時には迅速に対応する。
- デイサービスのみの運営へ移行することに伴い、移行前後の利用者の状態把握に努めると共に、家族との情報共有を密にし、安心してサービスが利用できるよう支援する。
- 職員の配置や勤務シフト、業務内容が変更されるため、運営が円滑に行えるよう、小まめに報告、連絡、相談を行う。また、ＰＤＣＡサイクルを繰り返すことにより、効率的な業務を目指す。
- 施設を日中のみ使用することから、出勤及び退出時には、火元確認等の火災予防対策、施錠等の防犯対策を確実に行い、安全に使用する。
- 新施設の建設については、関係機関と連携しながら準備する。移転時には、運営への支障が最小限になるよう、関係機関の協力を得ながら計画的に行う。また、環境の変化に伴う利用者の不安、負担の軽減に努めると共に、新施設での運営がスムーズに行えるよう協力し合い、研修、相談等を行う。
- 在宅生活を継続するため、各利用者のニーズや問題点、困り事等について適切にアセスメントを行い、家族及び各関連機関と連携しながら解決方法を検討、実施する。
- 地域の理解、信頼を得て利用者の増加を目指すために、施設を開放し、見学会やサービスの説明会、住民との交流会等を行うと共に、お試し利用等によりサービスに繋げる。

- 地域住民・利用者家族・行政が参加する運営推進会議を定期的に開催し、提供しているサービス内容等の説明や意見交換等を実施することにより、サービスの質の向上を図る。
- 少人数ケアにより、利用者個々に配慮し、きめ細かいケアを実施することで、利用者の自立支援を促進し、重度化防止を図る。また、新施設においては、間仕切りなど室内環境の利点を活かし、利用者の特性に応じたケアを柔軟に行う。
- 自然災害に備え、日頃より防災知識を深め利用者にも周知する。また、新しい情報を得ると共に、地域との連携を密にする。緊急時には、情報収集、周囲の観察等を行い、地域防災組織等と連携を図りながら利用者、職員の安全を確保する。

【総合評価】

達成度(%)　　85%

＜評価＞

☑ ケアマネージャーとの連携により、訪問やアセスメントを行うことで、利用変更や新規利用希望者に対しても迅速に対応できた。

☑ 担当者会議や、日々の送迎時等において、自宅での様子を伺いながらサービス提供を行った。デイサービスのみの運営となったが、法人全体との連携により大きな混乱は見られなかった。

☑ 業務内容を日勤帯のみに変更し、一部の業務において担当職員を設定することでスムーズな動きが可能となった。

☑ 出勤時・退出時の確認マニュアルを作成し、安全に施設を使用した。特に火の元や熱源となる物に対しては、数名の職員で確認を行い事故も起きなかった。

☑ 計画的な引っ越しを行うため、年間スケジュールを設定し、他部署との協力を得ながら片付や備品の移動を行った。最終的な引っ越しでは、休業せず、利用者への影響も少なかった。

☑ 介護相談員の受け入れを行い、利用者からのニーズや困りごとの把握に役立てた。

☑ 施設を開放しての説明会は行えなかったが、職員が住民自治の総会に参加し、地域住民との交流やサービスの説明等を行った。お試し利用の希望はなかったが、施設見学を行うことで新規利用に繋がった。

☑ 運営推進会議を年２回実施し、利用者や地域住民からの意見を取り入れることができた。また、新しい事業所についての説明や、内覧会を実施することで、事業所に対する理解を得られた。

☑ 月ごとに行事予定表を作成し、複数の職員で体操やレクリエーションの提供が行えるよう、体制を整えた。

☑ 年に２回の火災避難訓練及び風水害の避難訓練を実施した。また、地域の防災訓

練にも参加し、災害時には施設職員及び、地域住民と連携が図れるよう確認し合った。

平成30年度

指定通所介護事業所 佐 礼 谷 利用実績

１．事業内容

区分: 通所介護〔地域密着型〕利用定員 18名

体制: 入浴介助体制〔あり〕加算

: 送迎体制 〔あり〕

２．開所日数

: 311 日

３．利用実績

（単位:人）

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
登 録 人 数		34	37	40	40	37	39	41	41	39	39	39	39	465
実 利 用 人 数		34	36	37	37	34	37	40	38	37	35	35	35	435
介護度別利用者数	要支援1･2	17	20	18	19	18	20	17	24	31	28	23	25	260
	要介護1	120	136	131	96	90	92	112	104	92	68	63	84	1,188
	要介護2	51	66	78	92	96	106	116	115	105	109	100	103	1,137
	要介護3	68	71	71	49	36	31	34	34	21	6	5	32	458
	要介護4	26	23	28	45	41	38	58	42	43	50	45	50	489
	要介護5	25	25	26	19	20	23	30	20	20	5	9	9	231
	合 計	307	341	352	320	301	310	367	339	312	266	245	303	3,763
開所日数		25	27	26	26	27	25	27	26	26	26	24	26	311
1 日 平 均		12.3	12.6	13.5	12.3	11.1	12.4	13.6	13.0	12.0	10.2	10.2	11.7	12.1
延べ入浴者数		209	238	232	219	233	223	252	251	216	178	174	206	2,631
平均入浴者数		7.0	7.7	7.7	7.1	7.5	7.4	8.1	8.4	7.0	5.7	6.2	6.6	7.2

４．要介護度別利用者状況

介護度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要支援	4	4	5	4	4	4	4	5	6	6	5	5	56
要介護1	11	12	12	12	9	10	12	10	12	10	10	11	131
要介護2	6	8	8	9	10	12	12	11	11	11	11	10	119
要介護3	7	7	6	4	3	3	4	3	2	1	1	3	44
要介護4	4	3	4	6	6	5	6	7	5	6	7	5	64
要介護5	2	2	2	2	2	3	2	2	1	1	1	1	21
合 計	34	36	37	37	34	37	40	38	37	35	35	35	435

５．介護度別利用者年齢構成

平成31年3月31日現在

介護度	要支援		要介護１		要介護２		要介護３		要介護４		要介護５		合計
性別／年齢階層	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65才～69才													
70才～79才			1	1		1							3
80才～89才	2	1	1	5	2	3		2		4			20
90才～	1	1	1	2	2	4	2	1	1			1	16
総計	5		11		12		5		5		1		39

６．地域別利用者数

月／地域名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
佐礼谷	25	28	31	29	29	30	31	29	29	23	24	24	332
中山	6	6	6	5	5	5	6	6	6	8	8	8	75
双海	3	3	3	4	3	4	4	3	4	4	3	3	41
合計	34	37	40	38	37	39	41	38	39	35	35	35	448
佐礼谷割合(%)	73.5	75.7	77.5	76.3	78.4	76.9	75.6	76.3	74.4	65.7	68.6	68.6	74.1

7．年間利用状況推移

月／年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26年度	235	291	293	307	261	260	280	254	268	225	214	231	3,119
平成27年度	224	241	246	246	252	248	235	242	241	188	207	217	2,787
平成28年度	245	227	214	213	237	231	235	234	253	253	227	268	2,837
平成29年度	253	261	271	283	257	307	323	307	285	251	244	273	3,315
平成30年度	307	341	352	320	301	310	367	339	312	266	245	303	3,763

8. 事故状況　（医療機関受診を伴う事故）

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	対応・処置内容等
1	7月6日	男	その他	ホール	バナナが禁止されている方にバナナケーキを提供した	血液検査 薬の処方あり
2	8月30日	女	転倒	ホール	歩行中膝折れあり転倒	レントゲン撮影し異常なし
3	12月20日	女	ずり落ち	浴室	入浴後浴槽の足台から踏み外す	レントゲン撮影し異常なし 湿布処方あり

事故発生状況　2018　通所介護事業所 佐礼谷

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有											1	1
	無			1			1					3	5
居　室	有												
	無												
食　堂	有												
	無						1						1
トイレ	有												
	無												
浴　室	有			1									1
	無											2	2
デイルーム（娯楽室）	有												
	無												
施設外	有												
	無												
その他	有	1											1
	無	1											1
小　計	有	1		1								1	3
	無	1		1			2					5	9
合　計		2		2			2					6	12

（評価）

同じ利用者に対して、内容の異なる事故が連続して発生している。身体状況や生活状況の変化に注意すると共に、ヒヤリハットの内容を参考にすることで、変化に応じた対応方法の検討と、その内容を共有することで、事故を未然に防ぐ必要がある。

ヒヤリハット件数　　７件

9. 苦情発生の状況

苦情件数　　０件

指定通所介護事業所　野中

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2.　機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（１）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（２）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3.　健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4.　レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（１）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（１）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（２）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（３）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

- 利用者の心身機能に応じた活動内容（手芸・園芸・音楽・運動・喫茶等）の選択肢を増やし、内容を充実させることで各利用者のニーズに応える。また、外出・調理については利用者からの要望も多いことから、今後も計画的に実施する。
- 地域住民を対象とした活動（調理・歌・運動等）を多種多様に開催し、事業所が住民にとって楽しめる場所として認識してもらえるよう、地域活動の拠点としての機能の構築を図る。
- 地域の集まりに定期的に参加し、介護に必要な知識や認知症に関する勉強会等を実施すると共に、情報交換を行い、要介護状態や認知症になっても暮らせる地域作りへの協力、連携体制の構築を図る。
- 地域住民・利用者家族・行政が参加する運営推進会議を定期的に開催し、提供しているサービス内容等を明らかにすることにより、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質の確保を図る。
- 医療依存度の高い利用者もサービスを受けられるようサービス内容を検討し、医療機関との連携による情報の共有を図り、円滑な受け入れができるよう整備する。
- 定期的に内部研修を実施することで職員のスキルアップを目指すと共に、外部研修にも積極的に参加し、多様な技術・知識を得ることで、質の高いサービス提供に繋げる。
- 自然災害等、緊急時に備えて地元消防団及び、防災組織等と具体的な協力、連携体制の構築を図る。

【総合評価】

達成度(%)　　８５％

＜評価＞

☑利用者ごとにプログラムを立て、計画的・継続的に実施することで、意欲・自発性の向上に繋がった。

☑調理レクに関しては､季節に応じた料理を作ることで､季節感を味わえると共に、意欲の向上にも繋がった。

☑外出の場所をその都度各利用者に確認することで、希望に沿った外出ができた。

☑老人クラブのメンバーに案内して、焼肉パーティを計画することができたが、その他の地域住民が参加できる行事の実施をすることができなかった。今後は、事業所から地域に出向き、ニーズの把握をしたうえで、計画・実施をする必要がある。

☑地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流が図れた。また、定期的に総会等に参加することで老人クラブとも交流が図れた。

☑定期的に運営推進会議を開催することで、地域の各役員と情報交換ができると共に、事業所から情報発信し、事業運営に関する協力体制の構築に繋がった。

☑医療的処置が必要な利用者でも、医療機関と連携しながら通常通りの受け入れができた。

☑外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

☑災害時に地域住民や民生委員と連携しながら、円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができたが、消防団との協力体制の構築には至らなかった。

指定通所介護（介護予防）事業所　野中

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練等を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2.　機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（１）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（２）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

3.　健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4.　レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（１）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（２）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（１）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（２）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（３）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

- 利用者の心身機能に応じた活動内容（手芸・園芸・音楽・運動・喫茶等）の選択肢を増やし、内容を充実させることで各利用者のニーズに応える。また、外出・調理については利用者からの要望も多いことから、今後も計画的に実施する。
- 地域住民を対象とした活動（調理・歌・運動等）を多種多様に開催し、事業所が住民にとって楽しめる場所として認識してもらえるよう、地域活動の拠点としての機能の構築を図る。
- 地域の集まりに定期的に参加し、介護に必要な知識や認知症に関する勉強会等を実施すると共に、情報交換を行い、要介護状態や認知症になっても暮らせる地域作りへの協力、連携体制の構築を図る。
- 定期的に内部研修を実施することで職員のスキルアップを目指すと共に、外部研修にも積極的に参加し、多様な技術・知識を得ることで、質の高いサービス提供に繋げる。
- 自然災害等、緊急時に備えて地元消防団及び、防災組織等と具体的な協力、連携体制の構築を図る。

【総合評価】

達成度(%)　　８５％

＜評価＞

☑利用者ごとにプログラムを立て、計画的・継続的に実施することで、意欲・自発性の向上に繋がった。

☑調理レクに関しては、季節に応じた料理を作ることで、季節感を味わえると共に、意欲の向上にも繋がった。

☑外出の場所をその都度各利用者に確認することで、希望に沿った外出ができた。

☑老人クラブのメンバーに案内して、焼肉パーティを計画することができたが、その他の地域住民が参加できる行事の実施をすることができなかった。今後は、事業所から地域に出向き、ニーズの把握をしたうえで、計画・実施をする必要がある。

☑地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流が図れた。また、定期的に総会等に参加することで老人クラブとも交流が図れた。

☑外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

☑災害時に地域住民や民生委員と連携しながら、円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができたが、消防団との協力体制の構築には至らなかった。

平成30年度

指定通所介護事業所 野 中 利用実績

１．事業内容　区分：通所介護〔単独型〕利用定員 16名
体制：入浴介助体制〔あり〕加算
：送迎体制　〔あり〕

２．開所日数　：　365 日　（稼働率:66.15%）

３．利用実績

（単位:人）

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録人数		36	38	38	37	40	39	40	37	36	32	33	36	442
実利用人数		35	36	31	33	38	37	39	35	35	31	33	33	416
介護度別利用者数	要支援1･2	24	24	29	39	53	47	51	50	55	56	42	54	524
	要介護1	84	108	106	104	119	101	114	119	128	98	102	116	1,299
	要介護2	82	85	82	95	113	104	116	109	83	66	61	53	1,049
	要介護3	49	56	48	50	50	46	52	32	40	26	29	29	507
	要介護4	30	31	30	30	29	28	35	34	34	64	64	58	467
	要介護5	4	2	4	2	4	1							17
	合計	273	306	299	320	368	327	368	344	340	310	298	310	3,863
1日平均		9.1	9.9	10.0	10.3	11.9	10.9	11.9	11.5	11.0	10.0	10.6	10.0	10.6
月～土曜日平均		10.9	11.3	11.5	12.3	13.6	13.1	13.6	13.2	13.1	11.5	12.4	11.9	12.4
日曜日平均		3.4	3.3	2.5	2.2	2.5	2.6	4.0	3.3	3.6	3.5	3.0	3.0	3.1
延べ入浴者数		186	217	216	229	288	249	249	239	250	232	220	212	2,787
平均入浴者数		6.2	7.0	7.2	7.4	9.3	8.3	8.0	8.0	8.1	7.5	7.6	6.8	7.6
野中地区の利用者数		96	134	126	139	164	145	160	135	135	113	114	122	1,583
野中地区の利用者割合		35%	44%	42%	43%	45%	44%	43%	39%	40%	36%	38%	39%	41%

４．要介護度別利用者状況

介護度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	5	5	5	6	8	8	8	8	8	8	8	9	86
要介護1	12	13	12	11	12	12	11	12	14	10	11	13	143
要介護2	6	7	6	7	8	8	8	8	5	5	5	5	78
要介護3	8	8	5	6	7	6	7	3	4	3	3	3	63
要介護4	3	2	2	2	2	2	5	4	4	5	6	6	43
要介護5	1	1	1	1	1	1							6
合計	35	36	31	33	38	37	39	35	35	31	33	36	419

５．介護度別利用者年齢構成

平成31年3月31日現在

介護度	要支援		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計
性別 / 年齢階層	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65才～69才							1						1
70才～79才		2		1						1			4
80才～89才	2	5	1	6	1	2		1	1	2			21
90才～		1		4	1			2		2			10
総計	10		12		4		4		6				36

６．年間利用状況推移

年度 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26年度	172	206	178	220	191	172	181	207	222	218	188	208	2,363
平成27年度	234	257	265	262	236	231	239	219	220	158	211	210	2,742
平成28年度	204	232	211	262	264	243	243	221	213	202	194	211	2,700
平成29年度	207	220	238	245	231	228	226	232	230	226	207	276	2,766
平成30年度	273	306	299	320	368	327	368	344	340	310	298	310	3,863

７.事故発生の状況　（医療機関受診を伴う事故）

病院受診を伴う事故なし

事故発生状況　2018　通所介護事業所 野中

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有												
	無												
居 室	有												
	無												
食 堂	有												
	無												
トイレ	有												
	無												
浴 室	有												
	無												
デイルーム（娯楽室）	有												
	無	2		1			1	2					6
施設外	有												
	無	1											1
その他	有												
	無												
小 計	有												
	無	3		1			1	2					7
合 計		3		1			1	2					7

下肢筋力低下や立位バランスが悪くなった状況で起きる転倒が多くあった。今後は個別の下肢筋力や立位バランスを把握した上での移動介助が必要である。また、体操等の運動をすることで筋力低下を防ぎ、転倒予防に繋げられるよう機能訓練の充実を図る必要がある。

ヒヤリハット　１０件

８.苦情発生の状況

発生なし

短期入所生活介護事業所　野中

【基本方針】

利用者及び、その家族のニーズや課題の把握に努め、利用者の有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、サービスを提供する。また、各関連機関との連携を図りながら、利用者の心身機能の維持向上と家族の身体的・精神的負担を軽減することにより、在宅生活が継続できるよう支援する。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）初回訪問時やサービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

2.　機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（１）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（２）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

3.　健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（１）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（２）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（１）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（２）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（３）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

【重点目標】

- 夜間帯の様子など、生活全般について細かく観察することで、認知症等をはじめとする様々な生活課題に対して、ケアの検討や環境整備等に取り組み精神安定を図る。
- 利用者の心身機能に応じた活動内容（手芸・園芸・音楽・運動・喫茶等）の選択肢を増やし、内容を充実させることで各利用者のニーズに応える。また、外出・調理については利用者からの要望も多いことから、今後も計画的に実施する。
- 地域住民を対象とした活動（調理・歌・運動等）を多種多様に開催し、事業所が住民にとって楽しめる場所として認識してもらえるよう、地域活動の拠点としての機能の構築を図る。
- 地域の集まりに定期的に参加し、介護に必要な知識や認知症に関する勉強会等を実施すると共に、情報交換を行い、要介護状態や認知症になっても暮らせる地域作りへの協力、連携体制の構築を図る。
- 医療依存度の高い利用者もサービスを受けられるようサービス内容を検討し、医療機関との連携による情報の共有を図り、円滑な受け入れができるよう整備する。
- 定期的に内部研修を実施することで職員のスキルアップを目指すと共に、外部研修にも積極的に参加し、多様な技術・知識を得ることで、質の高いサービス提供に繋げる。
- 自然災害等、緊急時に備えて地元消防団及び、防災組織等と具体的な協力、連携体制の構築を図る。

【総合評価】

達成度(%)　　８５％

＜評価＞

☑利用者の言動を確認し、可能な限り意思に沿うことで精神の安定に繋がった。

☑生活全般の状態を観察し、生活課題を把握することで、個別の対応に繋がり安楽な生活に繋がった。また、事業所間での情報の共有もできた。

☑利用者ごとにプログラムを立て、計画的・継続的に実施することで、意欲・自発性の向上に繋がった。

☑調理レクに関しては､季節に応じた料理を作ることで､季節感を味わえると共に、意欲の向上にも繋がった。

☑外出の場所をその都度各利用者に確認することで、希望に沿った外出ができた。

☑老人クラブのメンバーに案内して、焼肉パーティを計画することができたが、その他の地域住民が参加できる行事の実施をすることができなかった。今後は、事業所から地域に出向き、ニーズの把握をしたうえで、計画・実施をする必要がある。

☑地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流が図れた。また、定期的に総会等に参加することで老人クラブとも交流が図れた。

☑医療的処置が必要な利用者でも、医療機関と連携しながら通常通りの受け入れができた。

☑外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

☑災害時に地域住民や民生委員と連携しながら、円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができたが、消防団との協力体制の構築には至らなかった。

平成30年度

短期入所生活介護事業所 野 中 利用実績

１．事業内容　区分: 短期入所生活介護〔単独型〕基準該当
体制: 送迎体制〔あり〕

２．開所日数　:　365 日

■ 利用定員　:　6名

■ 稼働率　:　97.35%

■ サービス期間　:　平成30年4月1日～平成31年3月31日

３．利用実績

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用者数		19	21	19	20	21	21	23	19	18	13	15	14	223
介護度別利用状況	要支援													
	要介護1	29	39	51	53	58	65	47	53	54	32	32	41	554
	要介護2	44	46	40	38	45	43	47	23	34	23	33	30	446
	要介護3	72	69	75	59	41	37	43	45	52	33	32	32	590
	要介護4	26	23	8	24	25	24	42	48	46	71	70	71	478
	要介護5	12	6	6	9	9	9	6	7					64
	合 計	183	183	180	183	178	178	185	176	186	159	167	174	2,132
	1日平均	6.1	5.9	6.0	5.9	5.7	5.9	6.0	5.9	6.0	5.1	5.8	5.6	5.8
送迎利用実績		67	60	64	61	68	53	64	47	47	32	44	43	650
野中地区の利用者数		50	58	52	55	59	69	56	60	64	86	69	85	763
野中地区の利用者割合		27%	32%	29%	30%	33%	39%	30%	34%	34%	54%	41%	49%	36%

４．年間利用状況推移

年度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成26年度	178	186	180	185	186	179	186	180	182	176	166	175	2,159
平成27年度	178	178	174	179	178	173	170	162	175	168	172	156	2,063
平成28年度	164	175	178	170	178	172	168	160	164	172	160	185	2,046
平成29年度	178	180	170	168	183	177	186	176	178	173	163	177	2,109
平成30年度	183	183	180	183	178	178	185	176	186	159	167	174	2,132

５.事故発生の状況　（医療機関受診を伴う事故）

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	対応・処置内容等
1	1月22日	男	転倒	居室	夜間一人でトイレに行こうとして、ベッド横に敷いていたマットに躓いて転倒した	頭部打撲があったため、病院受診をしMRI検査をした。脳には異常はなく様子観察の指示が出た。その後異常なし
2	3月24日	女	転倒	居室	夜間一人でトイレに行こうとして、バランスを崩し転倒した	頭部打撲があったため、病院受診をしCT検査をした。脳には異常はなく様子観察の指示が出た。その後異常なし

事故発生状況　2018　短期入所生活介護事業所 野中

発生場所＼発生内容	受診の有無	転倒	転落	ずり落ち	衝突	誤嚥	誤薬	異食	離園	表皮剥離	利用者同士のトラブル	その他	合計
ホール	有												
	無												
居 室	有	2											2
	無			2			1						3
食 堂	有												
	無												
トイレ	有												
	無												
浴 室	有												
	無									2			2
デイルーム（娯楽室）	有												
	無	1					1					1	3
施設外	有												
	無												
その他	有												
	無												
小 計	有	2											2
	無	1		2			2			2		1	8
合 計		3		2			2			2		1	10

夜間の居室での事故が多く、状態把握が難しい状況が多かった。突発的な事故が多く予測が困難な状況ではあったが、今後は個別の身体状況や状態等を把握しながら居室の安全な環境整備に努める必要がある。

ヒヤリハット　　10　件

６.苦情発生の状況

苦情発生なし

地域活動支援センター　くりのみ

【基本方針】

なんらかの障がいのある人々が、自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、創作的活動、生産活動の機会の提供及び社会との交流の促進を図ると共に、日常生活に必要な便宜の供与を適切かつ効果的に行う。

【具体的取り組み】

1.　基礎的事業

安定した作業を提供し、働く喜びを実感できるよう支援する。また、個々の個性、可能性に応じた個別の支援をしつつ、利用者間の協調性も養う。

（１）内　　職　100 円ショップのプラスチック製品の組み立てやシール貼り
　　タオル折り、ゴム部品のバリ取り、期間限定の箱折り等
（２）自主製品　廃油せっけんの製造・販売、メダカの養殖・販売
（３）バザー　　販売品の製造、販売

2.　機能強化事業

利用者とくりのみ会年間行事計画を立案し、レクリエーションや季節の行事を体験したり、他団体との行事に参加も含めて社会参加を積極的に行うことで、日常生活の維持向上を図る。

（１）自主活動　　お花見、新年会、クリスマス会、忘年会
　　調理実習、学習会
　　映画、交流会、工場見学
　　くりのみフレンドリー祭り
（２）参加型活動　町内福祉施設周辺の草引き、清掃
　　町内福祉施設での行事への参加
　　市、他施設、病院等の行事へのバザー参加

3.　職員教育

三障がい対応の体制であるため、それぞれの障がい特性についての知識を習得し、個別に柔軟で細かなサービスを提供する。

（１）各種研修会に参加後、職員間で研修事項を共有し、専門的な知識、技術の習得に努め、利用者一人ひとりに合った支援を心掛ける。
（２）職員間で利用者の情報を共有し、統一した支援の提供に努める。
（３）定期的に事業所内勉強会（くりのみ勉強会）を開催する。

4. 家族支援

家族にとっても頼りになる施設として、家族と交流を図り、協力し合う。

（1）くりのみ利用者の家族にバザー等行事への参加を呼び掛け、くりのみとの交流を図る。

（2）家族会関係の行事、研修会に参加し親睦を深める。

（3）支援の必要な家庭については、関係機関と連携して家全体の支援を考える。

5. 地域貢献

地域住民の福祉力を高めることのできる障がい福祉の拠点として、開かれた施設を目指す。

（1）行政機関、民生委員会、介護サービス機関等の関係機関との連携を深め、地域の中の障がい者やサービスを必要とする人に、くりのみの情報を伝える。

（2）くりのみ利用者の家族や行政への要望を聞き、より良い事業所運営の在り方を考える。

（3）住民参加型のくりのみフレンドリー祭りを開催する。

（4）くりのみ勉強会の内容に応じて関係機関の参加を呼び掛け、利用者や福祉制度等の理解を深める。

【総合評価】

達成度(%)　　70%

＜評価＞

☑ バザーの売り上げが下降しているため、新商品の検討を行い調理実習の機会で試作した。来年度のバザーに取り入れる。

☑ 月１回のミーティングの内容を試行錯誤している。一度、関係部署にも参加を依頼し実施した。月の支援状況の振り返りと作業収入などの共有を行った。

☑ 家族との交流を目的にバザー等への参加を呼びかけているが、参加できる家族が少なく交流が難しくなっていることが課題である。

☑ くりのみの啓発として交流会やバザーに積極的に参加し、利用者も含めて地域と交流しているが、事業の制度等の理解を地域に広めるには工夫が必要である。

（１）年間行事

		行 事 内 容	参加人数	場 所
平成30年	4月 9月	くりのみ会（お花見）	10	フラワーパーク
	5月 19日	しおさいふれあいバーベキュー	10	ふたみ潮風ふれあいの館
	5月 28日	くりのみ会（草引きボランティア）	12	中山保育園周辺
	6月 2日	ホタル祭り	8	地域活動支援センターくりのみ
	6月 5日	きらら交流会	13	双海保健センター
	6月 7日	土砂災害避難訓練	14	地域活動支援センターくりのみ
	6月 9日	くりのみフレンドリー祭り	10	ワークハウス睦美
	6月 27日	くりのみ会（米博物館）	12	米博物館
	6月 30日	ワークハウス睦美祭り	15	ワークハウス睦美
	7月 21日	なかやま夏祭り	12	中山町内
	8月 4日	なかやま幸梅園盆踊り	9	なかやま幸梅園
	8月 18日	南風会バザー	3	砥部ハートピアみなみ
	8月 25日	精神障がい者地域交流事業	7	久万高原町産業文化会館
	8月 31日	くりのみ会（いもたき）	8	大洲市
	9月 23日	なかやまくり祭り	11	中山町内
	10月 4日	くろだふれあい秋祭り(台風で中止)	0	くろだ病院
	10月 10日	くりのみ小旅行（香川県：屋島水族館）	11	香川県
	10月 15日	くりのみ会（西条だんじり）	11	西条市
	10月 20日	第13回伊予市市民ふれあいのつどい	11	しおさい公園体育館
	11月 2日	幸梅園文化祭	3	なかやま幸梅園
	11月 3日	真光園バザー	1	真光園
	11月 3日	幸梅園文化祭	9	なかやま幸梅園
	11月 12日	くりのみ会（今治タオル美術館）	12	今治タオル美術館
	11月 18日	あい・愛フェスタバザー	14	伊予市保健センター
	12月 1日	お楽しみ会（手をつなぐ育成会）	8	さざなみ館
	12月 14日	くりのみ忘年会	13	エミフル松前
	12月 17日	県民総ぐるみ地震防災訓練（シェイクアウトえひめ）	10	地域活動支援センターくりのみ
	12月 22日	ほほえみ会しめ縄交流会	0	地域活動支援センターくりのみ
平成31年	1月 11日	くりのみ会（調理実習）	11	中山地域事務所
	2月 13日	くりのみ会（椿まつり）	12	椿神社
	3月 8日	くりのみ会（七折梅まつり）	13	砥部町七折

（２）利用実績

平成30年	利用実人員（人）	利用延人員（人）	開所日数（日）	1日あたりの平均利用者数（人）	平成29年
4月	19	233	20	11.7	12.2
5月	21	255	21	12.1	12.0
6月	21	261	21	12.4	12.1
7月	21	270	21	12.9	12.7
8月	20	242	22	11.0	12.2
9月	19	183	18	10.2	12.2
10月	19	214	22	9.7	11.9
11月	20	211	21	10.0	11.5
12月	19	198	19	10.4	12.0
1月	16	196	19	10.3	10.4
2月	19	214	19	11.3	11.5
3月	19	209	20	10.5	11.6
計	233	2,686	243	11.1	11.8

（３）個人別利用日数

利用者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
A	18	20	19	20	19	11	19	20	15	17	19	18	215
B	0	1	4	2	2	1	3	2	2		1	1	19
C	18	14	14	14	5	10	1	1	2				79
D	15	15	11	15	10	12	11	12	13	13	11	11	149
E	16	15	15	14	15								75
F	15	15	13	14	14	14	15	16	13	14	14	15	172
G	20	21	20	21	21	18	22	21	19	19	19	18	239
H	13	12	4		7	7	7	10	7	6	7		80
I	11	11	11	12	12	10	12	10	10	11	8	12	130
J	6	6	5	10	4	5	6	3	2		7	6	60
K	20	21	21	21	15	17	22	21	19	19	19	20	235
L	0	1			0			1					2
M	18	18	19	18	17	16	20	18	17	16	17	18	212
N	5	6	7	4	12	4	13	11	6	7	4	4	83
O	4	7	4	6	6	3	3	5	6	6	4	6	60
P	18	21	21	21	19	17	21	20	18	19	19	20	234
Q	10	10	11	10	4	1						1	47
R	1	1		1	0		2	1	18	18	19	19	80
S	15	17	16	17	18	18	21	21	18	19	18	18	216
T	3	2	1		0					1	1	2	10
U	7	21	21	21	16	7	6	6	5	4	19	10	143
V			21	19	18	6	2	3	1		1	1	72
W			2	4	0								6
Z				6	7	6	8	9	7	7	7	9	66
計	233	255	260	270	241	183	214	211	198	196	214	209	2,684
H29	246	239	273	245	253	246	251	235	243	235	263	277	3,006

指定相談支援事業所　　くりのみ

【基本方針】

障がい者の福祉に関する各般の問題につき、障がい者や家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言、その他の障がい福祉サービスの利用支援等、必要な支援を行う。

また、虐待の防止及びその早期発見のための関係機関との連絡調整その他の障がい者等の権利擁護のために必要な援助を行う。

【具体的取り組み】

1.　一般相談支援事業

利用者の日常生活全般を支援する観点から、障がい福祉サービス事業者や関係機関及び地域等と幅広く連携し、柔軟な支援を提供する。

（１）利用者が気軽に何でも相談できるような雰囲気づくりや信頼関係の構築に努め、利用者の主訴を的確に把握し、継続的支援を提供する。

（２）利用者一人ひとりに合った支援を実施するために、関地域ケア会議や民生委員会に出席し、関係機関と連携して地域住民に啓発活動を行う。

（３）訪問相談を継続し、サービスに繋がっていない利用者を対象に生活状況の確認を行う。

2.　特定相談支援事業

利用者が希望する自立した生活を支えるため、適切な福祉サービスが多様な事業所から、総合的かつ効果的に提供されるよう配慮して計画を立てる。

（１）支給決定前に、利用者の居宅等への訪問面接によるアセスメントを行い、計画案（モニタリング期間の提案を含む）を作成する。

（２）利用者等の同意を得て、計画案を利用者に交付する。

（３）支給決定後、事業者と連絡調整を行うと共に、サービス担当者会議の開催等により、計画案の内容の説明及び意見を求める。

（４）（３）により意見を求めた計画案について、利用者等に説明し、文書により同意を得て、計画を利用者に交付する。

（５）平成 30 年度障害福祉サービス報酬改定により一部の報酬が変わる。市・他相談支援事業所と話し合い、伊予市での基準を明確にする。

（６）介護保険サービスを併用又は移行する人に対して、介護支援専門員がケアプランを作成するために必要な情報提供等を行う。

3. 地域移行支援・地域定着支援事業

施設・精神科病院から地域に移行するまでの支援や、地域生活を継続していくための支援を行う。

（１）地域移行

① 地域移行支援計画を作成する。なお、作成に当たっては、利用者への面接や障がい者支援施設や精神科病院の担当者を召集した会議を開催し意見を求める。

② 利用者への面接による相談や、施設、病院からの同行による支援を概ね週１回行う。

③ 利用者の状況に応じ、障がい福祉サービス事業の体験利用、１人暮らしに向けた体験宿泊を実施する。

（２）地域定着

① 対象者ごとに、緊急時において必要となる家族、サービス事業者、医療機関等の連絡先等を記載した地域定着支援台帳を作成する。作成に当たっては、利用者に面接によるアセスメントを実施する。

② 利用者との常時の連絡体制を確保すると共に、居宅への訪問等を行い、利用者の状況を把握する。

③ 緊急時には、速やかに居宅への訪問を行い、状況を把握すると共に利用者の家族、関係機関との連絡調整、緊急一時的な滞在支援を行う。

4. 職員教育

各種研修会に積極的に参加し、知識・技術を習得することにより、職員の資質の向上に努める。

（１）意思表示の難しい利用者の主訴を把握するため、スーパービジョンの機会を取り入れ支援の質を高める。

（２）障がい特性、制度、相談支援をする上で必要な研修に積極的に参加する。

（３）他機関と連携を図るために研修会等に参加する。また、事業所で担当している困難事例の提供を行い、支援の方向性を広げる。

5. 地域貢献

地域住民に相談支援事業を広く周知し、障がいへの理解を深め、誰もが住みやすい町を目指す。

（１）地域住民が障がいについての理解を深めることができるように、啓発活動をすることによって、地域の支援力を強化させる。

（２）支援に協力が必要な場合、当事者の同意を得て民生委員等に担当者会への出

席を依頼し、適切な情報を伝えることで支援者のネットワークの構築を図

（３）中山町内の障がい種別を問わない家族会の設立を検討する。

【総合評価】

達成度(%)　　85%

＜評価＞

☑ 一般相談による支援の必要がなくなった後も訪問等を行い、気にかけるようにしている。

☑ 行政を含め関係機関と加算の取り方について話し合いや 5 月から障害児利用支援事業を始めるなど報酬改定による取り組みはできたが、児童の相談件数が予想件数の５件を下回った。

☑ 相談支援をする中で「ひきこもり」の人への生活支援については関係機関と連携して試行錯誤しているが、十分な結果がでなかった。

☑ 地域家族会への支援について話し合いをする機会を設けていたが、高齢化などの理由により会への参加が難しい人も多い。今後も事業をする中で障がいを持つ当事者の家族を含めて支援を行う。

一般相談

1.相談支援を利用している障害者等の人数　　（人）

		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	計
H30	障害者	24	0	0	5	19	0	0	0	
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	24	0	0	5	19	0	0	0	48
H29	障害者	19	1	0	6	10	1	0	1	
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	19	1	0	6	10	1	0	1	38
H28	障害者	21	1	0	6	14	0	0	0	
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	21	1	0	6	14	0	0	0	42
H27	障害者	14	1	0	6	7	0	0	0	
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	14	1	0	6	7	0	0	0	28

2.支援方法

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
H30	33	4	13	69	4	2	178	16	319
H29	28	11	31	52	21	2	188	16	349
H28	27	6	7	43	16	12	182	19	312
H27	28	18	26	69	9	4	202	8	364

3.支援内容

	福祉サービス	障害理解	健康・医療	不安解消	保育・教育	家族関係	家計・経済	生活技術	就労
H30	91	31	102	21	0	15	44	86	17
H29	28	25	68	10	2	10	38	171	28
H28	76	28	63	57	0	13	51	71	4
H27	52	13	41	17		2	154	98	8

	社会参加余暇	権利擁護	その他	計
H30	2	4	10	423
H29	4	2	20	406
H28	5	8	15	391
H27	6	12	14	417

特定相談

平成30年度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	7	4	4	2	3	4	9	4	5	7	4	5	58
継続相談	6	6	8	8	7	9	6	7	3	4	3	12	79

平成29年度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	6	4	5	4	3	3	6	3	9	3	5	4	55
継続相談	4	10	6	9	13	10	9	5	6	8	8	12	100

平成28年度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	7	6	5	2	3	5	6	3	8	2	8	5	60
継続相談	5	6	8	10	9	6	6	8	5	10	6	7	86

平成27年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	4	4	5	2	1	2	1	1	2	1	4	6	33
継続相談	5	6	6	6	10	11	5	7	4	5	8	8	81